岷江入楚

角総

才世十六

特別
へ 12
4604
46

^124寺
4606
46

小汀文庫

角總ヘ行ケリ 愚案奥ニ住ス

文三歳中納言 私權本ト同年ノ秋ヨリ冬ニ至ノ事也

秋ノ宮八宮ノ周忌法事

源中納言訪家伯事

右香ヲ角總事

白宮心向語申 姫君行事

宇治ノ里留家伯事

右出老人物語事

姫君對面事

明日源中納言歌文ヲ家伯事

曉帰事

姫君除服事

源中納言家伯百例 老人物語事

姫君心強事

宇治ノ宿家伯老人引導 源中納言手入姫君履歴事

姫君起居尾籠事

源中納言ノ手紙ヲ姫君ノ事

明石源中納言手紙ヲ姫君ノ必ヲ

源中納言ヲ無ノ文ヲ姫君ノ文ヲ 無ノ文ヲ携源中納言ノ事

48 3715

八月廿八日彼岸結願日　源中納言朱付無名文出家事
源中納之帳内物語事
白文出仕之後物語事
白文忍入中宮殿而語事
暁天源中納之白文同車還京事
明日白文仕文遣家中文事
御使賜衣事
家中宮三日夜餅事
源中納之遣消息中宮事　返事
及源更白文来家中宮事
九月十余日源中納言朱付白文出家中宮事
無名文欲参源中宮事
源中納言文欲源帳内之参文事
付春夕雁乃おとゝを太乃おかい成とうけるかあり何やち
ひとやたるゝ　はてゝ乃ちのあしたをたゝうとよを
つゝうや

源中納言乃まゝ〳〵〳〵〳〵

十月一日無名文宿紅葉御覧遣家中事
舟乗事　依中宮仰大馬猪乗御遣事
文歌御文おゝ中宮事　不おゝ家中文忍而京事
帳内中宮不怨無名文忍而京事
内中文少食無名文家中忍而御氣悪事
左大臣殿六宮中御無名文事
無名文乗牛一文御方見至文語事
無名文久不おゝ家中事
源中納言乗家中事
帳内病悩之対面事　明日聊対面事
中宮重病無名文語事
十月廿日無名文歌消息おゝ家中事
十一月帳内病悩同事
源中納之訪事
作阿闍梨参見無名文宿遣善彩不注事
阿闍梨参見無名文宿遣善彩不注事

原中納言女中宮御乳母事
原中納言義孝法師事
恵心京事 所々
法住寺殿事
地蔵京事
同葬送事
長谷中将之中宮方法師事
中宮京点墓事
宿方法師事
中宮御物見事
原中納言女事 所々長谷ニ天還京法事
年暮原中納言欲仏同事
長谷ニ天可在原中宮方於京ニ乗院月之事

角総 秘

何方 あけまきにあらき糸をもしたてあそばすにはあらいかんん
私詞 あけまきいとをたりあまるようかしをもそなはりて
のいとにくもとあり
あけまきは二ありあまをあけまきとあけまきとあり
又車ぬりよ糸にて紫をかくるとあけまきとあり
いとけあけまきい糸をそしくるをいふ童女歳乃秋より
冬まそのかりとけり
秘 あけまき赤ふい総角とうち童乃心也催る糸に角
総とうちうしろにそ結ふをいふ 此巻原催る糸に角
いさん童女の秋より冬まそ乃ぬり
私云天皇所元服乃付童形乃ぬ乃ぬをも総角と
云也 童の事也 何あ花 弄花 此巻ノ名 総角と用
此物ニ角総を用ふ所也
菫 三ツ 推古天皇三乃皮まそ乃事ある 此巻之秋ち
三年ちれぬすまといふ事不可也

あまた年みなれ行かし川風も今の秋はことにしるかな
秘 廿五にもとかの事を(?)へかれと八丈荒しかけて(?)ける
抱(?)かなしき人まや
義 おくへ八丈乃かつらのよのしいはつかれをみても薫乃事り
かたし事はたまゝりけり
それとそ乃事しいれをせる
花 しをかくのをなき年の八月廿かよかせ(?)し 忌 周春の御
仏事をつき御をそのまたいで
秘 八丈一回事や　年　義
わすれかたりつゞれ事 経のそぶり
義 宗法乃事や　袈裟衣　経仏などの事あるべし 法事は
八講などし　花 経乃ことは 経机乃霊(?)などのまで
きこゆるよちらのいて
義 紫上のやうの事もあとしつゝすとなさら 是は人の事 法連
てゆしれ乃れしるを
秘 薫乃し給そのまゝや
義

ミつしもかたくれもなし
義 薫乃宗法(字)へおかれるや
いまだとわきすてゝかたのれらつい
秘 義 若眠(?)をねきかへ時のまゝや
藤衣乃もわるあゆみかたの衣裳なとまでいつやりかなある
べし　又かのかたの浙心法れとのいつひてあるべし
こかし乃いとひきみしりて
河 名香糸　行香ノ机　四角ニ結ニ垂ル糸也
花 法事乃香を紙につゝみて又其乃糸にしてもちいける
く仏よまそてまつる事也
秘 名香糸とて結ずたしかなる兄(?)なし 河海説可然
名香つゝむる紙を糸にて結ぶるや　又云名香袋ニ糸を
付る事有　又至河海
義 河海花鳥ノ義各別也　拾河海説ちしと云ノ花足(ケソク)乃心架
まりつくる糸なるべし
くてもへわるなとうちかはし

身をうしとこそなきわるるかれいうてとへぬる物しれるけち
秘 糸乃縁ぬりの引 引 引 秘 姫君ちちうしのてらかてしのしのちりのしも
中 君とらかてしのしのしの姫君乃 ロすきもや
山をしのけしたりの
河 糸をくるめも 百十三 しなのつしもとのたてをうちをけらむ河ぶの忘をるを
花 延喜式線柱 柱 とうてくつとよめる糸をるるるのまも
手 糸をくるまも 線柱とうをり 同たり糸をるるるもも
くるの家をてしもと 一番合点 たふり 声 シサス
秘 糸をくるもも 花多 延喜式をしの東勅之 令神祇令第
六 允天皇即位 柱 ―― 其大幣者三月之内 令修理 祝任
クヲ ヒ ヲ 金水桶 金絲柱奉 伊勢ノ神 七日 いつかり

あるとこ心して
集 薫乃香乃糸と心はるるも

秘 薫乃糸をくるる事をてくいてくるあをてあく
るる糸をくして糸溪といむのぬるるん 此ものハ七条乃
集 らせるる時手掛つるあるも 河 伊勢集七条右前崩時
うへんあつすりてのるるのくをもるんけるもるへのハ 伊勢も
ちるそをるつをくいま何るるきをるくをはるくるくるはち
ちてくいまをねをるんちるあ
れいをるるんちるあをてるる砂ををにてい
伊 せのこしかくこれハ
秘 ごハ御せくつきていつる初も
河 一ち御ハ女房をくつるくるも
四條大納言新撰髄脳 いせのこう中 勢 ちよちけ
哥 ハ
帝朝文粹云徒院彈琴者圓稱年 卷 御俗謂貴女為
御蓋取更人女御之義藤相公兼年官故称其女也
菅家所作慰小男女 上河内

うちの人はきゝしらんよ
姫君からや
わかれなしにとりつゝゆきゝこの世あらしの別なるよ
何 糸によるわかれなしの名残の心あらくもおもひゆるにあ
秘 姫君の心中也 川舟にとよるわかれなしよし 古人しは
わかれなしにとあり
弄 川舟 古しと云わかれなしにとあり 家集にはわかれなし
にとるけるとや 此事しるや
私 道ね法師かつくれる草にもわかれなしにとあれ 源氏物語
りかゝさるとあり
花 此世ならの別にわ生別やわれるまなし ましてなき世
哉はいふてもあらかるなるべしこれは姫君の思ひたる事也
箋 花鳥ノ義ニ同シ
いかんしんつてり結びとけぬやせるべき
秘 於文の事を何家桒も其よりはしかあるべし
かきかしるへる硯のつゐそよ

箋 此あけまきは
本草に作りあけまき
とあらねとも
西は遊女の
哥也 下云
大君の事を
のたまへり

箋 薫於文の事をときたるにや
箋 あけまきに長き契をむすびこめおなじ所によりもあはなん
何 総角アゲマキ 日本紀 擧巻 催馬楽
催馬楽呂 あけまきやひろはかりやとはかりてねたれともまろ
ひあひけりかよりあひけり とあるは ひろはかりや於八尺
ばかりや さかりてはよりのさかりたるを人のさかりてねたる
よしなるにや 定家卿の哥にも
あくまてもむすびける契ゆへなにあけまきのよりあはんなと
弄 糸をよることをあけまきなとにむすびいふる心又は催馬楽の哥
の心にてすゑはあひよりやなと乃心をもこめたり
秘 薫の我ことをかの乃めくりけるも催馬楽乃哥にすゑはあはな
ぬりかよりあひよなりの心也又名香の糸を角総よむすびし
よりかれしとはいてあけまきの心をはれしらやなりよりあはんと
あり 箋 弄
是はいのとかうるきをれしと
秘 大君の心也

箋 是は下よりくりかせてあつかひたるなり

ねきもあつまりわき渡の玉乃緒よふっききちきうをいうもをを
抄 玉乃緒よ実うをもしきへつき身りてもふしとや
私 渡の玉乃なのとろきやうよむをひとめやむれなふたとふき
実をいはしを延まうれとや
箋 五世をへきんりて前れ風所乃ゆうりわとありしや
あっをハ何なとうめしけるよふっあふ
何石 かうき系をこふるうるよろりうけてあっをハふかにを玉乃緒よもん
箋 円前なを川 花 是ハ業乃心乃うらをいふを
寿 川前らもしも糸にとよりくる前をいふり
箋 引前円あつて是れ乃系ハ何のことあれとや 業乃日まとまとや
とうし乃れらへをやうくれこふうと云く
抄 業乃秘め乃られへをいひ乃へれともあるぬさ渡よろふしふへれ
語 白氏の事をふうふにや多ふとや
私 大充のとうしけるはまし多くるよあかきれさやれるさうふを
なうね心うれきとえの多ひよりて白氏の事をかこうけて
よ世事よの多とや 此同業子乃地ともいふへしや

はしも心にいふましき事を
抄 白氏の事や
箋 業乃詞や 是ハ白氏の所心よっうへき人前時業花乃人の
中にありきなさしなきて此宗法乃事よ心とあふふね冬よ
みうろうれ心しゆりしく是つれめうるにつれふかきはまふれ
まけじむしねやうかふんとまてふるやまてはましく御心
の情まさとうるよさてあるまじきをにも氏とたんゆうとうるの延
やう乃かうつにれうしまくこしう
抄 白氏ね色乃うしにまくこうる御心をいへり
いとらうなれもしきうろてまる
寿 業乃白氏の心をよく情そらんうるや
ましらにうしわめつうハあるまじけるを
抄 白氏よまくとうる作心をいへり
をくをふれたるらん
白氏乃あうふうれいとも称よくさうりしうるさるよふと
くつまふくてのとるうりふかとも白氏乃心を情へさうりうる

かくの薫乃深切をいひなて薫乃大君へ慕志をいはなし
くゞ志しなきくやるへし 本乃詞に又乃事なと ましてやうに
きこゆるをそむけゆへとや
世乃有り侍するとおはしまさしくは
大君乃世上乃分別もおはせんと云なしや
うとてうらしく
秘 こゝろうく跡をとにしかみとや
うちかへのときこえて
薫乃表裏なく心をへたてぬよそほしく云るへ世のあり
侍るらのなおしかりねやうかりとえや
こゝろしおかしうきんさま
秘 大君乃れ心を已乃に侍ること治けれはさとや
義 中君を自へれ同心あるまじきにやそれなお乃処をとも
理をおわきまへぬさとや
多くへきこゆゝし乃心にてなり
弄 うれしう姫君の心 秘 大君乃詞也 薫よりなまいしきを

細 大君乃詞 八宮乃いましめ 一云ゆへよこしまに経薫へも備
心なくいひせよとや
あやしき世乃ためしなるありさまにて
公界なくは薫なとく世經ならしつらんありそれはなし
かれをうくあやしき世のためしといへり
ゝなそまぬなとよ心あらん人は思ふのことく好はしき事を
秘 なく世をなき遠志つるなるをまつれしかはを云しなへきも 弄 細
私 世乃ありさまなとおかしからくしくえみをそまつねなとと
薫乃なかしはまくへき詞也侍遠きも我心をまかれしそ何事
をもいふまじきとや
何事もまかれなにけるうちよらのゐたまさるを
秘 よろ乃何よ心をそれなる心乃うらなれしなとも
大君乃報る身をのちの世乃ためこそらまほしく思ひ又へ縁をむすそ
逢ん事なるへし
いとゝへもさつまとおもひなしうらは
秘 ろうきるまゝるを八花文の事 此次ても乃たいせきうしとや

かはらにほまそてよろつきしるかくてをありいる也へく

(秘) とらいつるよろつさきおちをちいふかくく孫とおかしくろ

あつへしやきてえんくるすへしとなりまて大むの我身にほとし

いへるや

はるはそらし世かわる

(花) 花はいりてと姫君乃事をのかんや

(秘) 花より中君乃事也

みむくれはハ心なしけり

(河石) こゝろこれらむくれのちらまかれ心は花よりさきはかわらん

(手) 深くもれ乃言乃心又は言かくてしきこしつへし

(清) あつかりけり

(竹) りてあつひくる心也

けさやうたおもあひても

(秘) 薫乃心也今にもうつしろ乃事はけさやるふハのかれいよるきま

あるへしとや

こしろりくのられ世はすま乃

(秘) 薫乃詞　弁乃君よののかみや

私弁未古女へ余りれめし事ハ仏法に入てらて乃事也しとや

ある心かれけよおかしかくらめし

(秘) 古女乃のま也付の事とハ姫君くちののや

私薫よおもすせくる様よ古女作をきまし也

おかしをきこそまつりかれし

花ハ八女乃花しをきてしけれくるかるとや

れ心もへそもや

姫君くらの御かりとや

おかしをきつゝるのくるくるやと

花ハ姫君くらの家に心むけ乃わるりやとるとかしくるとや

世中にや志むるるあつりつるを　何ともつもるるあさや（一本にや志むるるきさや）

(秘) 我身のあり住まを薫乃弁よいひき世のかや

世乃人もやくくいいのなす也

(秘) 世間よい薫と大君とれもやよろしき中れと人ハよるふる乃んとや

くいのかしてのかれやうまとのころ答や

文乃御事なとかきこゆかり
秋 袋
白文也ちかふるらん事なとありしらぬからかとや
薫乃かたうへは白文乃ねなる人かりこそふるらんらんまし
きゝけるとや
おとかしむけるすれは上まあらん
おもかしなきるゝものとなりつやあらんといつ本をあはせていひき
弦いたくとうちすゝめて
秋
かりしことかるへ御心むけのあるやとや
さいのるひとる女なるなとれ
付院弁乃ちの清まちよかあていつる御思さるひらうるこゝろさなふ
葉の作むせいつ迄も御心むけ乃にいくしきなとるれしる
やすはいひ多くき事にとや
いと清いあるも心乃うちしみわしまかりたるへき御事こもとこゝと
花
弁いふくき清うしらやハなくてゝるものまにかちもひかるへし
私あるまかしうるへき御事ともとの大弐を葉へ中弐をも
文へこのまゝや

平
あるまかし
なへきか
弁かやせ

をとよりかくへはくるいかへる
秋
弁か詞は姫君乃御事なきや 平
よろひよるにやゝやと
袋
只物なしつきたるすれは御あるまてゝ清へ御心乃ひく事なと
あゝにくいなしとや薫乃かうのまゝ花也清迄とも葉と実よ
うるふにてはあるも心ごいさむやめんとのゝ答や
かくてきらる梅されかしもほころいに何のまゝの花けある本引との
袋
おくの心かれき清まよりつる事せしに比らに何れ花文のたゝえ
ちし時清へもち七条乃花のうせ多く時伊勢か七首すり玉
秋乃月みちとも人には花あいちりくましれなへてのむらけなかる
まてとといへるゝ心ともあり
何古
ものへ乃けて三千る木のまくさたのむらけなく五条ちりから
身をすてゝるゝゝふかまりを
我身乃ためとさ人にをや背すと人行ちるや
よるきみちかる人も
別してなきふ竹まて御かねへ清へ花かつく退散すへきとも

[illegible]

秘 古文の心を問ひ

古文の心をきてとゝ

こたいのうつりさ

秘 あまりよのうつりかはり事にいとゝ

私云にきてうつりくるもはやうさ受領ふとのつ

ふるいとゝとれかしいとうりうるつ

世にうゐきあつんとあふうちにれをきこんん

やうふるふるさ四方そこふいやうのうつりまけ

てとつうつりあまりとて何ふとゝ起人ふれ地乃心

もとつわへるつふれも

杜乃葉とをたつもるふ

河 仙人生羌 食杜 葉百餘寿百七十余年 芙蓉為衣杜葉為

食 仙門隠士行也 ちきてハのこいつゝや

秘 ちきてハ食也

花 樹下集 朱乃いろう 苦乃衣に身をやつ杜乃をふ也

[illegible]

金峰山縁起役行者葛藤皮衣杜

葉為食吸花汁助保身命世余ケ年ヲ

役行者杜乃葉を食とゝ花ノ乾行歴漢

果をつゝ人也

いける世乃まそかるしるよ

何とゝして時乃をとゝんまるためにまる事心

るき四心ともるれ結ぬへき事かる

秘 弁ふゝ姫云ふるよ義創のゝ 弁

私云いゝ光いさふゝ姫人の中にうゝ人乃何かと

ふとゝりを蓋へ弁ふかゝりゝ弁乃居ふとは

りてはるへるも

たいもへくもはしゝ結ふと

大云乃心乃つゝさ雨を弁ふ蓋へ

秘 義創ゝもゝ結ふさる也 薫乃泊よ心とりのいもゝあやにく

よあつうけるいたにおかゝを

也義也 伝てたつもへふもふ

うの花のうつるを花やうよりむけく
花 あ秋方乃心よ仲方をとうたれ〜やうとあらもけ秋よ
〜老人のうるを
秘 仲方とかくむかく菅のうつるを久人乃心さ〜よ
心仲方をとゆる〜久乃心乃遠と
方乃心をとて伝あり
秘 句文かり
句文いねなくうとやおかり仲方と文かとかなとうしをま
〜〜と事とい大方と心乃伝ゆとを
あれ乃ゆ乃ひとと
秘 菫乃初花文乃心遠言をいつ
いつるとをとそまるん乃ゆ〜事ふれと
菫の初ゆと方乃仲方をとゆつりゆ心ゆれとと
〜事ゆ〜〜あゆ方をとのかを
秘 さまとるかりとるゆ
仲方と菫と大方乃おかとゆれと似よえ心ゆう

まとき
私ゆれ乃大方乃心心ようけゆとうれゆあまとと
心のひゆる
秘 大方ゆ心乃いゆ
ゆりゆ心ゆるとつる菫ゆ
菫のうと世ゆ著とゆ心ゆと怪心乃ひゆるの花ふゆとを
ものつゆよゆりのゆゆる
世上乃風流ゆきゆる心ゆて
こものこゆるれまゆるを
何 事殘
とゆくゆ乃ゆゆる世乃ゆあゆとを
大方と風流乃ゆる菫とをとまゆるれゆる〜 仲方乃菫と
乃心ゆるとのゆ心
ものきこゆるきさいのゆ
手 四人仲方ゆ〜心菫乃ゆ
秘 花ゆる秋仲方とゆいく菅乃方菫と

三条殿はおやと云ふまこのへ殿なり

秘 女三宮なり 実

かとはかりのそこいはてしけるこころかるを

秘 姫君のうるせ

こちくしこちにく

秘 おとくしくしさう 実 事こしこそ又事乃心あるをあり

ましくる心にしやるかるるとの

秘 大宮のすこうこうをいふをいふ

宮乃ひすをしさうとあしくしとも

秘 白宮の御事也

ちをてやいふ

実 薫にちをてやいふ 平 ちをてんをとも

老人のこころいかれよあるまをけりはあり侍を

薫は大宮と心こうをはいふまるれり言はまるにいろるをと

えとかはぬも 辭 居の心也

あるるるるをもいろるる

秘 大宮乃心なり

私薫のはるるにはの給ふを初乃まる更よ侍まくるし

けようるるを大宮乃心乃ひるくをるるる物こうう

對面しるるも

こにしちかるるるるまるれと

秘 薫乃居りしかを 実 乳母なるもいさそといふくりしろて

おやまうして薫乃うるるるるるを侍るる

手 ういるるる心也

うちくるしあるるるこけよ

秘 薫乃心よしこうるるる

大宮乃こるをうれこうるる

くるるるすさるるるるをを

薫乃心にるるるるる

あるるるるるるるを

実 薫乃あるるるるるるる

とてもかれぬ詞ばかりなるべんと
さのみ風人の心の薫をのつからとりかれ人也
まちもまさりてを
人と心ばかりにてちらさぬ
おもひつゝ
大方の心は
心ちのきゆくゝ
大方の初也
山ちりけ作りつる人をまちて
秘 薫の初
薫の山ちりけつるゆをりかとのゝ
へてるさくらいろをやしてゝ
秘 はかきんの初
花 薫の屏風をゝ
あぢきなくなりの
秘 剣しるべ
人をいひとゝ

へてゝ心をたゝにあり
秘 薫の初也
陽心あるゝ
きをせゝまつんそのゝ
めつらしきもいろあるに
花 姫君のゝ
ゝにゝゝゝゝ
私何と定
ことゝ
をせよたゝ
秘 是病なり
私人いとまてゝ
ゝきゆくのこゝ
心ゝきかとゝ
人とゝ

秘 薫の初
陽心あるゝ
きをせゝまつんそのゝ
めつらしきもいろあるに
花 姫君のゝ
ゝにゝゝゝゝ
私何と定
ことゝ
をせよたゝ
秘 是病なり
私人いとまてゝ
ゝきゆくのこゝ
心ゝきかとゝ
人とゝ

灯心かれう

秘 薫乃心也

ちいてうんんえはりの赤あるまゝけるを

実 薫のうるうひも然これ心のとうにてとまるゝ事也

くしんんえうもうもきもとも我るゝとうひるんとあり

ハとあやうゝ物也

らうるきやうるうしこうゝ

秘 薫乃心乃とうるうきゑ也

うゝ心の行をこうるうて

秘 大元の心也

実 薫乃所心をうゝあるんうもうゝいひるれ人をゝ大元乃

後悔ゝかゝ也

ゆしゝき神の名を

天 ゆしゝき神の名所を乃名乃ゝ

秘 鉦名乃

実 ゆゝ文文乃所中也

ミつゝ乃ゝかゝいるはし

実 れいき人を薫乃うゝ物ゝかゝとの四

いとかゝしゝむかはゝやうゝ

秘 薫乃心也あるもうゝいとのうゝ

うゝんかるゝ

実 薫のうゝ心ゝ大元の四十とは物ゝ用忌とも也

の但とあること也

神の名をいきけのゝ

実 うれうゝ薫乃神也

何 かゝる心乃うれわけ人乃神の名をいとゝまゝける

さいうゝ乃ゝをうゝ

秘 服乃行をうゝてゝ乃ゝ

実 出行物乃差ゝ乃ゝ事ゝ

けていゝ

ゝゝ物ゝ乃ゝ

とゝて実ゝ乃ゝ

秘 服乃事ゝ

ゝれゝ乃ゝ地ゝ乃名乃事

昔如此行上
付録アリ

ちゝしうもあらけるか
秋
大君乃心や
秘
秋扇婚巻よまの乃月よ地乃音もなし時より出りし乃二つ乃
なまと薫のきみを大君乃心よるやのすを心よこめらるゝと
まゐく笑ましきさまをみなかひけり事よとおもす也
とやうう乃ひとかうしく
名香
死
ひとハるよ逝て寂乃字乃心也糸よりあはれはれや　秋
志きと乃ひとらかやうん
抹香乃うかりん又して樒乃ちらいん
人よりハけよ仏をもしさきさゝてあつ
秋
薫仏よ心はし乃みつきをいつ
かうあり乃とうしきさして
薫は大君よちろさつたりとこつて皆志みれきぬを
このゆひしはなりとおかし　ねかよ
秋
八宮や
発
大君乃心也ぬよりなくいてうる示り死し経く
この方乃事しもをへしまのまくなるくしきうつぬくらし心

あはきるやうおれりや
氷乃あをにかりけれハ心ちしぬやれ
河
邊風吹断秋心緒瀧水流添夜涙行
浅江れ公
秋
発
るものいろゆらとし
河
晨雞再鳴殘月征馬連嘶行人出　白氏文集
秋
征馬連嘶行人出
発
しい乃やうりのあるや
旅宿のありはまや
ひうみてつはうし
障子也　外のさるあまへし
いとあはしきさましてうつひきこうるある
秋
薫乃大君をうつくしはまや
何とをなくてちら薫乃詞也
やうくおれやしはもかくはをて
秋
大君の心や
かいとちうしるすりて

秋
大君の詞也

しら雪の立さまちふ
河内
しら雪のちらにしらなとはるとふ雪をみるやと
来ふきあしふのうのをと
秋ふるさあしたを平晨や
義
うの山は雲をうゝ
いるにいとをうゝきを
秋
四てゝいとゝも　花　あうゝ
いとゝふるうゝけは
大声の心や
秋
をあるとうの雨をえうけ行うゝ
秋　蓮の初心
義
玉文のきあゝふをいを為家仁信門院恵とふ類
ふき来のふしいてゝ木の戸の四ねは文方とは志れし
あさまゝうゝふん
秋
大声の心ふり
はまりのちきはこえをふ　行うんまに

向後八蓮はうゝふゝ〳〵と約りのハ約はうさの多人とき
人のゝのゝ心
いとをべふゝと
河
云仮たりふゝとや　はんやうふゝとも　義
はんをうふゝ同事や
秋　蓮の初心
あの月のうれやうをうの事ゝて
たうゝうの暁かさのうれしみちさゝまうふもはれありけう
私義　川方たふ
庭名とうゝにうあん
私晨雞并鳴殘月後　征ゝ　廿俗まや
蓮
山さとのあはまうゝうゝ
夫
村名の羽風をうけうゝ次才はの羽は鶏をふいし
はよてうゝ　ようあつたうとうあ
秋
蓮の奇心秋ゝゝ
村名のゝゝ花さうの前
いつふうあんといて次才ゝはけ風をとりあ

かゝるよハいつもや　後朝ニ帰るに暁ハ鐘乃声よりも鳥のこゑに
鳥なくハ鳴のねまさりき
義　在郎ニも文ありて乃あはれ山里ハ物の哀を志りあつ
せうとや
私　秘ニハ又の哉然へきん
世尊　さり乃まへきこてねらむとおもひしを世乃うき事ハ又さきに
河右　宗の御静しきらてねおもふ山乃ふかき心を人ハ志りけん
秘　大君乃方や
義　世のうき事なしと来れ薫乃事をいひ侍り
かうり急しくて
花宗五　よりもそうきかりつけ下り祉なる急く思ひゆるに
薫の心や
いめ文を人乃宗ハせよの
義　大君の心や
何やかとつきくよ立てかの心つしいい陸めるよ
さうて梅人乃御事くれかしろうの事なといつくやうなるハあるたに
こ乃かれけりいわりけまれ
義　秘　薫なり
さうて梅か房なとこよいのやうに常ちちさりなとまゐやうなる
ゆへ大君の心つけり心こ（そ）あるをいらもん心ゐみ立たさて尋
とれ物そしハけ薫ハかりくをくるしうれ事ろとや
中納言を人まいくよ
一義　いりとの宮を薫へとれおりとや
又権ちハかんあつりれん
一義　中乃宮ハ大君の（知）ちしろと指名ゐ我身乃宮へよなし
てハ孤よかんあつかまんれとや
秘　おうんの御所のふれめに
られも薫を大まさ乃をりかしけさなりハとや
くゝるれぬるこころの事し
薫に大君乃さすらふれるらし月もへるゆへや
ろう世ハくてうしもてろんと
何かりそはて　うてしもる世ハ知んまいやうくの所よのあま近ましくて
かし

思いあまりそのかたのこと
秘 中宮の心や
ひとりのみ
秘 あの宮のつまをしまくせうぶんの宮よりきてせう
とき
手 あの宮に中宮の乃つまをもらいきせうぶ 義
この弁人のうくあつのそ
秘 橋姫巻にありし事しんを
まろうとの弁乃かと
手 芸
世ろくまくしくしくしく
実 風流くくぬ
わけまれをたいまにうふくしこ
何 あを物さやうくくひろやまりくさうてぬふして
まろの学りうくうりあいそうくく 撃 巻 白心
台催馬楽 大宮中 滋 同音 八人 高尋 ヒロト 左傳注

芸 姫宮のうるわしい心心あけまれの方よりろうろう
てはるふしもとうてのこと河をうしぬ
手 あけまきれの方を恋と姫宮とようくく結てをうかく物
かうろうとうを中乃宮いうこうるうんとぬ
秘 大宮乃心やあけまきの方をようくくかひくくをいう中
宮乃言葉つんぬ 芸
秘 おあけまきの方をようくくかひくれる大宮紙を
まろひあいそうぬや中宮乃あかさんとぬ
いろうろのつそうそ
手 見何ほけうくていふ心うろ
秘 催馬楽のうろあのそう乃心うそうきう中宮のやしく
うるうふつきとや 芸
日乃うろあう
秘 花宮乃正日をいう 芸
うろうぐるとえこれありのいうう作くく
秘 常のうにてかうるあるしあるし
系うそ桜のうそ心こ戸 経同日し
常しんをうてそうをうれいふうそくくそ
花宮よう
心葉
芸 ひもとひも
そもろう
もあるこ
花宮よう
今をえうて花乃うをもう事をあけまれの心葉ハ系にてもしもくやくくみしう

くらうなりゆくまゝには
細 大君のよそへの御をもかりてゆくらんなんゆへ也
中納言殿ありけれは墨あはれと
思ふ文ともみられけれと大君の心すゝしく給はぬ也
れいの事なとありてはかなきことなく
周忌にての御ほとに法事此かたの事はくらさてなほしろく給ふ
なきしんをなくされ給ふまても
細 大君中宮の御いまや
月ころくろうなれ給ひしなくなれ給ふをかへらむとひかりて
花 重服をわきてもしるく鈍服をきるや藤衣也
弄 除服ちかく成て今はかなき心ちさるゝとは重服の是
秘 重服とすみは鈍服のあるさ
細 くろきは着服也除服の後は吉服なるへし但心喪とて志乃
ふかきは猶志るく鈍服をきる事のありや
ちかひとりしては心のそやあらんと
花 ちらちりてまろくするあり中宮は御しとおもひきさとほゝ
こゝろうへなかりこゝちなりぬとも思ふはあるまじきと
いふ也
ちや心はよしつきこえて
秘 言は縁なへきと大君はこなたなとや
かのん世つきありし藤乃衣も
秘 あれんは大君也
私 秘あれんは言也つきなかりし前乃衣は一条乃附大君乃前
のやつ達を見あへは御達しもさつきなかりし事也
なつ月もたつ心なくて
河 男女初會合忌正五九月三ノ
秘 八月にかりしなるも九月まては志つかなる心なくてとや
弄 八月よかりしなるも 私只九月に
細 是は其忌月八月中は服也さるは九月ならはせんと言ふ也
縁をとる道も是かなしと也又ノ説嫁娶は九月を憚也御道
すなわち縁とをとるゆへは九月をともちらつすかりしなるや
私 秘

思いのやうなきこえんと
葉の大元へのぼりて一乗院
心あやまりて
一乗の事しらりぬるを
作者の例のやうに絶えたるきこえんとおもふを葉の心あやま
りしてしらりぬ姫宮の文とりのあいてらいんきき
事也
心をにてきこえのぼと
葉宗家伝の姫宮の
ををてわきまえ行ぬの
文のやうす 除脱 此ふ
思いの人めしてよつよの
弁尼よりこのかた
この元をのをあきこえ
葉をくのあをもる
よのてのをうるつの

にきいしき所の弁也
いかにくまつんと
葉ををいきこえまつんと
ひいらの元の系多をたつる
人の葉を道いきこえまつ
かりとも聞きこえ
をい弁元を葉の別して
かりとも
むしわかにいとくぶ
荷しら心とうとの事
小さ云推本巻よりの外
てしうしえみ
月日のけい御心
結くうつも行
什羽ひよとあ

にきいしき所の弁也
いかにくまつんと
葉ををいきこえまつんと
ひいらの元の系多をたつる
人の葉を道いきこえまつ
かりとも聞きこえ
をい弁元を葉の別して
かりとも
むしわかにいとくぶ
荷しら心とうとの事
小さ云推本巻よりの外
てしうしえみ
月日のけい御心
結くうつも行
什羽ひよとあ

仏推中納言の詠を肖柏法師とてやとあるとうきん
今東撰之
私肖柏法師にしつかろしきあめしふるさとをうつ人の石ひきをとそこれあるとあるとあるとの
心と大方のうつりかはりをしてはかなしとうつ
せるそうしうつ
つくづくうつ中方をとりおとくさとや
私三年うつ中ふるとあわ
あわをうに生をてるとそ
苔の心の実としきをつ
かのうにしうえをいかくはるや
秘苔中方よりあのはあ
とにいそういそうをうう事をまちとうんのあんん
花姫方の中方をとうつ
ふる事しかりんの
秘苔の心ちの中方にうえらわ
苔中方をありうとと苔のありうをとはをえのあまさと
けひくちきのあうをう
義門の義絶をたや
きをうにうつはは
秘中方のあるをうつ
私秘中方にうやうの下心をうつ
分をつていとかしのはを
一条院中に和歌にうはは
うつうつのて
大方の中方をあるうはは
前のはあしけと
秘大方中方のうの詞や
八文のうのいしはまをいのかしんや
心をうつうつをにうつ
姫方のちゆ花文はなをの
さはせをのうのをうしもをたうをけをせとうさんと

心なれよとは心なれしと大方乃心にいふなり
こゝろ〳〵のあやまりを公こゝろ物
さまざまのふんべつ乃大方乃見れる物のこゝろ也
けには乃こゝろなれあと
河 やうなれ〳〵きとふかんべつ乃留文所よりてこゝろ乃
秘 ちがひ〳〵ぶん乃あとや 業
花 やうの乃あとを河にあのやうまきこゝろよいつるゝ乃相ぶんを
きうとゝいるゝい行道とは乃
やうのあとをまわりにはやうまきこゝろゝいるゝ行道と文河にて
上乃河よりあのこゝろにはいてこゝろ片ほうにあくれた
乃にはやうにあくさまのあとといへ心を上にいつる事よりつる
ゝ乃あとを習をみあやまりくやうの物とあるゝ乃あとを
えゝうゝれをうゝあるゝて心乃ゝ
私に行あるゝ所に行道とは大器一花乃物とゝいふゝ乃
公をつけてゝゝ
ゝ風乃あるとは
大方乃秘事をのゝ

いつにあらすけにとゝ心ゝゝて
秘 中方乃心なり 業
一所をのゝやとはゝく世にゝゝゝ
秘 中方の紅大方ゝゝゝて世とゝゝきあ文のゝ
をさそゝにとや 業
ゝゝ〳〵〳〵〳〵乃ゝゝゝゝゝ
業 花文の中文を行さやゝにこれ業をきつれとゝゝふゝ
ゝゝくゝ別しあさ心を中文の秘とゝ乃ゝ
公乃れを河ゝゝさあゝふかゝ
大方の心ゝゝかゝゝゝゝゝ
ゝとあ道いやゝ中方をかてをてこれまれたゝ
おさゝやとはのゝふまとや
けにといやゝゝて
業 大方乃心は中方のゝふはまをゝとや
ゝこ道ゝゝてゝゝ
秘 大方乃道とゝ乃行とは花とはのゝ

うらみかなことゝりけるなりけりと
秘　辭世をとりあへすや
いかにもいひをきてまかりけるに
義　大君乃心中や
ひとかたならすおもひしかは
秘　父にいくし母をはしたしとや　義　父母乃うちより一人とや
身を心ともしなはせなれと
何後撰　いなせともいひはなたれすうきものは身を心ともせぬ世なりけり
秘　川前月　かの三従乃事を川へし
みな道ハ乃事にかよふなるを
二義　親のしたかふ事ハ身によりになりぬ老ハ心ともしたかふ事とへ
ふかくしるれはすかしき事わりてかとや
手つからかりけるに
あるまうの人をりとしけるに伝まなるやうにいひなしそ
伝道ともかはれ伝もかなすとや　大父の心
人めしられ心ともそ一つるよりふかえかと

けんには世乃所をも一花にうつす心あさきと見給ふはなく
その人乃いふ事ともにつけんと思ひて心乃かきや
ごせられ給ひて
何　不動
かなし心にかなしかりていかなる中乃事やは
大君の心も此事はいひかたくいにしき文ある中の君にかは
心しえ給ひぬとや
おくにはまよいしきて
道いの父乃かれらそてまつらへよ　私大君乃伝まや
秘　服衣をかへりて常の父乃かれらをとそてまつりんとや
弄　か君乃事　君の父乃かれをもとそてまつりんとそ
服衣をぬ世なりて
義　喪服のり
さる比もかの人いなきしかしれぬ花乃たかれんなるかりける
何　世中をとりしといひてしかてにある身をいつきんかなしくも花
秘　義　此前をひかり

かくけせるようにしてうちいれけせを 頭詮
そいあるべきを心やうよわるくもなくて大方乃
心うけてのりあんと苦心のこころあるや
この老人をのうこうこうこうこうこいて
此老人とい弁方に計数の老人をあるべ
けせるようにうめきあるとも
色とあるべ心やたいあるべさうめきるべ所と又所とあく
せいきあるそうきこゆやうにはあくきふとも狭小に心と多
さいいとふこうこうこねけよ老ひるあるや
手 さいいこうこうこ年よりこうこうこうこう

秘 弁乃尼

秘 蓋へ什数をとりてしやう

筆 をえらびけりやう

いとわいまとりてまつる

秘 弁乃尼乃初

はのをこれさたくも

弁の羽

御ものさをとりまいはとりくきこてさるとし

大宮乃つまをよのはれ乃命とりはいさやうり

蓋へりくりとせしやう

はをえこりあるくしもしまき

秘 蓋のやうよのあくとや

又うるはいさにはとりくしろきこてんと

無乃こえはらくこのもはかはの中こんをかはしはい金を集て

蓋乃うしろこせんや

うしはまつの屋うる

秘 弁乃初

ふしはかりくおりしまして

秘 父母小弁乃

筆 父母かはりてこをつかはかはいとも白髮蓋乃あるを

私 をしこりまつてこ結んん事無よあわかるこえしや

二人乃事をさくつとの結はさくもしとわこ

元しくせよあわかるこはれ事ともさくつとの結はさくはし

筆 万柳さのくこうをせよあつるこ所といてうはまい

こうちんの尼結やくよりはきこ結くあわかるこうかはこ

あくしや

私はあやちはう忍業乃起前ようはを什業にて別

不審ある事こ

かくこはしとかくはとくうるけなし

秘 かくけるこ事をはかくしこ

のちはれ事を

はをこちわるそくさはいは弁こと雜乃尼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弁ハ乃りいつるさ為をまくくとよまこゆ
大宮のくらゐさまを弁の蓋よりも
いるゐまはいをかくしも世をこゆるを
蓋乃大宮のゐをかくしこゆる
秘 蓋の道
私詞りいあくくを中心
いとをりいうりしておくゆまに
宗 大宮の世をいくゐのつるを蓋と左心あるんそいよく
阿つまをゐにをてつまるさをにくくとこゐわを
ゐくハ神をくゐをたと
蓋乃弁よりゐ道を
いくくとをくくをとを
稲ゐ乃ゐをよゐるゐけゐのゐをけくを
おゐくゐにおをとのをゐをゐる
宗 ゐりをさを中宮一ゐ一ゐよりわゐくるをくを心
ゐりのゐるにをいくきをん
別くよりゐるをゐをゐわを

くとくくくゐをくをまるゐ
蓋の姉妹乃差ゐをゐうくゐゐ
うちをゐをゐ紙ゐを
大宮のゐをいくをてゐくを
何ゐをゐ孫ゐりゐゐを
秘 中宮を
いうにをゐくをれとを孫ゐつ見て
大宮ゐ深宮のゐを心ゐ
私一年ゐ治ゐをゐつまをて
をくをゐくをゐくれゐいやとくくトゐり
ゐくゐ事をくくくゐつくくを
秘 大宮の心を中宮ゐと大宮乃教訓ゐくゐ時ゐいくき
宗 まをゐくゐいくを
いゐをくをくゐくゐ乃ゐゐ
秘 宮宮ゐ事を 古宮乃
くくゐをゐくゐゐくゐゐ心ゐくゐゐ

[illegible]

いとうつくしげ

大宮の一人うつくしかるべきやとときめきたまへり

[illegible]

あさましけなるものの　中宮の御心

[illegible]

大宮のきこえたまふ

[illegible]

[illegible]

宿世のうれたきつれなさ

[illegible]

仕損じつと

中のきやいとうつくしうまもりたまふ

人々のたてまつりたる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

手 万葉集にしきあれりしき神なとあり 秘 万葉集 上手
又云女乃領巾くさ時ふるわれか鬼魅ふるの領巾
とはまくとてあるなり 私 秘 オ二大伴 上下秘
遠 玉かつら花のみ咲テミナラヌ又ハ多カ遠ニアラヌ 秘 遠カモフリ
上手

はいうちをきて　何遠遠

あくにしにしあるわれ乃秋のあるとて
何ふるとこそ花ね昔ならわ人ふる乃秋のあるとて
秘 大方ふるひとふ方ねとこそ秋心乃とまるといふ
手 ふる乃あ乃方乃ふる孫と又中方にと心とするに紅ふる遠
集 ふれを寒すもふる又ふる方乃方にしあるひ遠人
ふるとふれもとに心乃とまるを
人やりふるをあるねまくとて
秘 秋心日とろて立てとを
荒乃心まくあ事をうくてるよあるてふ人やある遠
いとふるくてるきくへ乃れはまるのるへふよ

秘 あ狂荒乃事を
荒の中荒をいたそその結羽を
のらせとらくてるく行
集 只後とふ事を 不及門前
いとるのくるこるけわ恋ちよ
集 中荒乃心を
昨乃ふ乃事を
秘 ちたにしろいようるて昔乃品をむけと世中を
ふ心ちるくるふ事ふ哀訓ちとふの事れ心ふ
ふるとの紅をきふ
にくあるけると立て
集 昨日ハ荒乃ふ乃心ふ立て乃ふとは
荒のあ孫をふ人をつくるふ
ふ乃中のきりくをそのあるふ 秘 大荒壁
四 蟋蟀在壁 月令 遠壁 暗室 先限思 意巣 寒燕未結扉
集 姫荒のふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ

壁のつくろはれたるのしつらひを基よくとくらるる壁よあり

拙者遺恨也

けしきをかしかりしらくさうぬや感せられ

れかりそんとのいをくおもしかれん

中宮のおわせしを大宮の心やれる心

ゆしけあるこうそあるるる

秘 先才ともよるるるのみるるまーー心

心をもしるる

大宮の心中也

あるるにまりるく

宮へ中宮のあのて大宮れ遣るきをあるるもしるる

きるるのつるれを形のうるあるるるーて

秘 宮乃汀

別 るるて宮ーー遣るる見訓 給るるものつるるむき給るるやる

るんるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

露をもちけと我おる宿の萩の枝ぶりにうれ秋をたるれかれ
のをしいろをてかる枝にこるうつる心るれとしや
ちるく　枝をとりそろめける山姫よいろ〳〵ふつき紅とこそや
ちるく　元をとりて不れものうつろふあれ秋のつゆあり紅
はれり　枝に連枝の心にこるとれ行りとそなめけるに枝姫
元にしいれめり〳〵　こるり〳〵や

秋　蓋に大元にしたりをれるるを大元にたり始れまなるを
けれのとく〳〵よあるるめ多へとも　又乃蓋に旬と蓋に歌
服りを連枝とにこるつに心乃ひくとくるつく
ゆるるとも始とあ連とも才一歯の蓋てあや
蓋に蓋乃心に白へれ心のいくるとるるの始〳〵行秋れ
をつ連や

秋　けれのあ蓋あり乃自面に山姫の心にこれよ心かをる
蓋乃んこるすき蓋ふとるるるる
一云蓋乃心にあるとにいる連枝のまし　蓋乃心に行蓋よる
きをるり始ひにれ才にれるふきとるきるへとや

又一云蓋と白蓋と叡　叡

蓋りやるしきるへにるれるり白〳〵枝とにるり白〳〵行蓋れ心
又心るるるとにやとにいかしるるや
さりるるるるつるるきとれる〳〵
家宿　家宿るるるるの〳〵けるさるるるるるるるるの〳〵るけれるを
にれりのるるるるるとれるるるるるるるる

はかの大きの乃ゆへ中きとゆつる心ありてよめる
寄乃心を　ふくれゆくるかれこふるかるんとも
姫きの乃心いつれともなくもとも　きの乃中きよ遠れめ結
かとよりれれかるるかるんを　寄
ふしびよるるかつる　秋　冬事よ七　平
無為　アトナシ
えんしもつすしう　秋
きの乃心を大きよ八法あるようもつすしうきとも
所をとりけるくるとゆつりるふもつすきに
秋　大きてるよ中きをゆつるるひしるる
けいるるるいて　寄
きの乃心るるしれよ　元犯ようる大　元　きの乃ゆへるとこつる
もしるの乃ゆの
きのかるかる大きへ
こにくるよ心をとれめるんるたくにくやしう
姫きしるるるつるのれめしを　きの乃後悔

在中をふるもそんの心しうもるふるうりと
世をふるもそにるるるれもそにるるふ心といつり
あるふしあるうるるこきるる
何れ　ありけるくるるしかるこれるりかるんにやるいるるつき
いつもそなるしやにをつきれとこる結てこきをもるめして
ゆつりてゆつ中きよあるをそもりてるるを作りんと
しけるるるを
秋　特きの妹きのこるいるるるのるるんを事をふるれ行を
寄　行るしし　寄　行　秋よ同しし　寄　行　冬
寄しるきるるる　秋
秋　秋くもそるるるるしし結つる きの乃心に中きをそ白きの
つけて特きのるる通るふるしして秋かきを　きをしと
秋　寄しし　秋　冬　平　寄
三条天やけにし　後八六条院りそうるのるん通を
秋　きるるるるる結ちるるる　白きの内にて
三条院と結ちるる　寄
曹司あり又二条院と里を又六条院の内にて曹司ありと
寄

私世之文乃信ゆ〜と家文やけて六条院もむすめ
世こそのとうの女の笠を用ゆよ信乃へ〜白文乃院し
しあはせ行ちておりそやうゆ心ち〜ゆいとこう
ちうていうよ手り　手　白文乃二条院の里もとにて　おり〜ゆり
六条院にてかき
うつうとちうてちうおり〜ちうゆ
秘　笠乃掛〜ゆたいうゆ
めおり〜ましへきと　手　幾
風のつきて吹ちうゆの
みれわけきにけきてうゆ
白文乃中言也
ちうをのりとしうゆ
手　陪の中将とよわ給ふとへうすの引せ君乃へ
秘　ちうの尼その封面ちうへ〜
うへにおとしの給ふ
一説　尼乃きき君の家あとを賞もち給ふ
秘　宇　宗信乃中也
うしうちうの中ち

ミうちう乃心にうよ
笠乃ゆうさへいまもとうゆいよと文心中〜心
さもおせゆんと
秘　白文を中言乃ゆ
ゆうゆやう乃中也
中　言を白文にとうまへ乃ハ
おうへうゆ中ゆ
宇信へおうをつき中ゆを
ゆとしうゆ〜ゆし
笠の乃とうゆ〜き中ゆ
白文　をもゆ〜きけう大殿をとうゆ心をうゆやをうゆん
元右　花よおうそ伊へ乃ん也印花ちうゆ殿へ乃孫ゆ〜也を
同　をもゆ〜おうゆうのへのやうゆ
大野を信寿の未勤四よ入ら
秘　大野　ん示よゆ〜をしうさゆをと文心也笠乃恢情〜多
一説　大殿信示ゆ〜をしうゆ只大殿とうへん示院第に神中ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心せんとうかゝるに

秘 菩提の心を生て法のうを

思いのうをゝゝ多の法門まよはしこゝ

秘 白文の法心をゝゝゝゝきを菩提のゝ心 平

私中方よりおこんいをゝゝきとも 紫

知るにおりて

行はまて此事をおやうして菩提のゝ心

ゝとゝ人のゝ心よりもゝゝ

秘 白文乃初 紫

平 白文乃菩提ゝ乃心心乃事なるてゝゝ心てなりき事あれとも

なの心ゝに菩提ゝ

秘 菩提の初心

非者ゝゝゝゝ心ゝ白文の心をゝゝ

ゝゝまゝゝゝきゝゝ

白文の心ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

おゝ一寺つくゝ

宮法へ乃菩提ゝゝゝゝゝ

ゝゝ乃のゝんゝゝゝゝ

秘 時心ゝゝゝの天ゝゝゝて衣日也

紫 彼岸 時ゝゝゝゝゝ日ゝゝゝ

移徒と彼岸おゝゝき

思ひゝゝゝゝゝ

紫 宮法へ白文を菩乃誘引

きゝゝ乃文をゝゝゝゝ

白文乃ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

紙 白文法華ゝゝゝの時ゝ永ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘 ゝ宮法文ゝ川乃ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えやしきをしきを

うしまさ大夫と一云ふ事あるよの義の心

いまもりふうてをあり伝まりふうちいき詠てんや

義の中宮乃事思いるんとうまりかりつや

ていれちんとうまりかりつや

いつるしたりしたにうをを

秘 弁の行也

花 お弥姫宮しるし　事と弁ニ云るる也　義

さちんときこゆ也

秘 大宮へよりかり

伝是はよりうるうりよきりと

秘 大宮乃心也

義 義乃中宮ニ云うりうるをと大宮の心やしるし心

あのいりかりつるをたりをわいうし乃

花 中宮乃事かりへつき通しるあり陸奥を伝しるし

姫宮まり對面しかりや

秘 中宮乃うへ入りふつるたるかりるに大宮かりるに對面かり　弁

いとときこて寄つきる

秘 義の羽

いとときこきてかくしとそ

大宮乃羽や

いまいとうつろのちんをるるうるそ

中宮へうつろをとそしるるんよりハ何とも一云とふつさりや

るを大宮おかまや

んにくいふで来しるふ伝

義 いふでてり　伝ふいふしてして義の心をうして中宮

乃うへたひきやんとの大宮ちんの心や

伝うしの中ちりに独ふうるふ

花 陸奥のをりとは伝ていたりあけありをそ物ふをのうへ

うや

秘 陸奥のをはまや

弁 伝ふしのうをあるとたや

いとうてしあるさうふ　秘　大方乃心や
おしうていてんと　実　んとをうしるしる心や
平　あの方乃ひの葉と中方乃ひ
と、人と云るたりのすしき　秘　ひすいしちるんそと
秘　中方いとうるの多いてちるや
平　中方いとうたれる中ふると葉より葉
方いちへきとつすに一よ乃にぐらるて
秘　白方い葉のちへのまに入る多や
白方乃葉のまとうて中の方乃多へるいる多や平
方しるまていい葉と心をりる待せるや　実
白方乃心かり　秘
平　葉のやうよ毒の入るれて人とをちのくと白方
方の心るへ
いい方をとり結そうへいれてんと
秘　雅方いるやうたいるとと方乃結て葉と実の子はなされよ

中方乃うへいれんと云るの
秘　大方乃白方の中を葉と方乃結
おうとおしるる　秘　葉乃公や
うへの心と方をけうるとうれんと
実　白方乃中をうて大方へちとりきぬを涙ようと結んと
方のしるいるの葉
秘　葉乃和
こ乃ちるしるんや　秘　弁
ちるるよんるる
秘　葉の秋方れ中
いまとうるるねるもあや
秘　大方乃心やしあやうおとるるや
平　月とをるねるの心やるるにて人和と葉るる

[illegible]

秘 大方の御

私ゝ[illegible]の心ゝ[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 大方の白玉を心に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 宿世善[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あきてしのたりて我はいとこひわりて心乃ゆるあまたに
と来はけ方はいかりの姫君
秘 葛乃方ゝ人のたりなたち方りて和方はこりてまとへる事
ちとも　りてれの道はまるとるかるとはいり
かりくよりて心をかりのやれ悲しゆりぬみちりまちり
姫君乃返事ゝ人やてるぬまち心ゝとゝ心ゝ左今り
人やをりをりをるなくにとゝいふ方あり
大君乃方ゝ中君れ事をちと心又ちなれをるくと
ちりけ知ちるとか葛の心ちり乃ゝとはゝさゝり乃
ふをちとくゝ心ちり乃ゝとゝ
姫君乃方ゝ中君乃事をちと心又ちゝ知くとちり
かりくちは中君乃のとゝ又ちゝ知ちとはのちやもくゝ事ゝ
心しゆりぬりりまちふと葛のちはは心ちら
をちとゝ心ちくしりちゝとゝ
ちりくとりゆくをちとちゝ乃ちちいて乃ふちり紀
秘 白文ゝ　紀事

いとあはくくゝ心しかりちゝれと
葛ハ大君のちにおりちる方不寄ちるちゝ白文乃事を
いちくくくちゝわちゝ
あくはまふれ心わりんやちと
葛乃心とくゝのむゝ
葛乃はちるちゝはれをいとはけるけう
秘 白乃心ゝ
和中君ハ心乃とまれちれふちくく
来ちをつをそんと
河 ちを乃に力○花とまちこをて来ちをつをそんけくくふくよ
秘 河方用事乃方　紀乃
ちちよれ車ちをく
秘 六条院乃廊ゝ事
とゝちちちんを事
紀 宿の来りゝ入ちふゝ細代車ゝ
ちちくい結く　紀葛ゝ　白文ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同じうくるひいやうの行ゆや　一答うたりてゆりて
中へ入るといふや
て世てとちるんにるんとうちあん
花　ちくらをつミといふや
第　老いぬいる事の多れり所仕のうしうれいやうよりて老て活
つるかりて老ハ衰てこの世世と乃世の繁ハれと似ちるれ心
うへうハ　第　臺殿上しるんせ
うへ乃作てうり老人乃
花　かつけものより年ハ乃しるさと心ろふ心
秘　祿とるくる事や　白文字月のうとおかも
乃来しう乃しるく
秘　又そまる来心
第　蓋とる文乃字法いされしるんせ
ふさまけよ世とそふとにくあうと
秘　蓋とさるいるくるさりとるくはい心
秘蓋乃世乃事しるまれ作まるをいふや

いていちんかいあるにるうしる事とて
秘　字法文ちるまるうしる
ふて乃うある事とそ世ちるれね
るるるる世中　第　字法乃中言ハうれあり
うしるきるれるりいあやしさ
秘　こるいい悦いるふや
ハうしるいるしにあるあ海て
中ハや大ハ乃てうるのるや
こきれるり神乃いとるるわるれ
第にるかるいるうるいれるるる
さうしるるうあるて　秘　大ハや　第
世中にるるしるる
秘　あ心ハ羽
るるしるうあるぬ心いとるをうて
秘　大ハ心一つや
かるてう和いうそまるんと心るるやるるあり法

秘 花は葉へ中道とやと心得べし自受の法門心得べき事なり

中道心乃法門 為かくるん時大悲乃法門をいわ

こころむべしとや

秘 月は雲にかくれて雲にかくれたるとき人とも

秘 わが心を見てあやの心なきは晴れとそれいつて

秘 中道乃心に妙法蓮華経乃心を入れ事をつとめいつて

いくへし志なりと

秘 中道乃法門

わしらはしらず とさてしげを

中道乃心大悲乃わしらはしらずと領納しるべ

人もつよふ乃事 白受のうの事よいの心を大悲のつて結ぶとや

人もつよふ白受のねをよ中道乃しるべ

乃心もかくわるれるいしらず 秘白受乃心に志ありなるといつて

中道のうの白受のいしらずそれ悪い何れ事をとりしや

しのつよふ乃いりくへ乃心に乃しるべ

中道の引つくろふ乃心を白受乃心さしの阪さるや

わるしるもいしらず

秘 中道いに何とも心を結ぶとも

いしらずそれ姫君と

秘 仏界乃事

心悪にあつまりこゆるへ乃心

秘 中道乃心

わやしうねるびるん

中道乃心中心

乃ちこと乃志しるん

秘 中道

三月乃雲いりいるん

秘 養老よわしる事

おまへれ世さとる

秘 大元乃まへ
こゝろ乃心ゝ乃ふゝ
秘 まつゝよゝ行くゝ仕元ゝしゝとゝ
いこのゝゝ心ゝやといとて元元
年ゝゝ乃ゝゝと元元ゝ乃ゝ
秘 奉ゝ乃方や
こゝのゝ行くゝやゝやと
何 雑役
私三月乃末ゝて餅年ゝゝ乃ゝ
三乃ゝ乃ゝゝゝゝ乃ゝゝ
年 年乃事をゝゝゝゝ
みゝ乃ゝゝゝゝ
みゝのくゝの中ゝ乃郷とゝ
中古ゝゝ
をゝゝゝゝゝ
元 文のゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘 ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ

てあつかいをいへる事なり

秘 怖畏のけんもつこれらそなはる

大天の中天にしてかの所をいつれも

云事をいへるとて

おそれきこえたり

いにしへすべて人の心をいい威ヲドスの心と

こころいろいろゆへ〳〵けるる

秘 火牙のもの〳〵若のもろいしよりの

四つのいろいにけうしよりの

秘 四使のけれもとあるを心つかるべし 毒けれもをもろ〳〵

えをやうもて時のきをもつけられるれ又使乃心

つかい〳〵けるや

緑をうけ〳〵の心つかい若乃又とは初めをる事なれ

若若〳〵あるや

秘 ひてるを心ゆりいうをもあれ〳〵地なれ〳〵とを

心のいをそるもの〳〵地なるとも

心のいみをるもや

心あるを〳〵〳〵心をるをれる

秘 あるをよ心をもちをといのをるをといへる第五地去神也

所いるるを所と心つかいあるへ〳〵也

まちをるを人〳〵あるれる

秘 若若あり 第

あるは若をもあるれなるをふと也

天竺の宋内に新りのあるて

秘 三日乃宋の事也 毒

私白天系内の事あり也

四心をるを

白天乃仏心神〳〵

神天仏〳〵いをりをて

秘 白天をのれ神天の四天制也 毒

何ものもあこをるを〳〵心

秘 一切乃事也をるなれ仏法をたてをるあり 三事と毋乃れ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いときくにくれ
秘白文の法七
中文のあまりとくくのかいと書るけとうもが一人の
ゆかりとなるべくしと也
不生花方のかとこれ
此方のたとくくきさをるるるくいるる
いとかくうるそまるうる法く
菩乃心也
ちかくはさけるしにこれ　秘サワグ　そさく心
たかくはさけるれる京と宗法の事也　言乃安るるよ　ちかい
いま法に心るるけきるへ　法へおくしいるは中文乃
見ねるへきとちかくはさけるれとけ也
こうといのつるるるるきこて菩く
菩のと宋乃罪るいるんとおのれの中文れ脇五
迷惑くくるやるにかりるいる白文の心をとくるんと
乃菩の心也そ白文乃生涯おるくまいる赤毒いたく文

白文へかとつけて宗法へ此俱ゆ菩也
こうる乃山にるいくいく作くき　（可才）山城乃木幡乃里にるいあ迷と宗と迷つるるるれゆく
（花）菩乃宋とるけるれいくるる　秘宗法のさるるれるるるるるにてあるるるとゆかり心也
るにくるるるるるるいく作くさとるる心るる云也
作れあるくるるるるるよくよく初よいるるる
るるるるあり　此初異あり
いくるるのきるやはるるるるるるんと
秘我といのれるて又我と我へくるるるるとゆるる也
人乃いつる事るる此教あるるる
此るるに法くつるるまるる
秘菩乃初
宗くくるるにるるるいくる
并菩乃事一心
私白文の代よ菩八の中由よおるる也

中文乃れるまいり法へまいらせ候

秘 四ノ心　文字白文也

惣乃名中文へ来りて白文仮字とのみ心

うへうこうしてなを

之上　今上也

いたあきてわる

いさめきこえ候ハ文字法也白文と四ノ名中文ハいさめ給ハ

ねいふりのもの事とも　又ハ仮字と清家ハ有りいさめ

きこえねと白とをきりていふりのあきとりむ心法てよむ

と称用へきん

あまりに文字ちりくとをとゝ

秘 四ノ名中文ハまりとくあり一寸心

四ノ名中文の文字ハあまりに寸也

大文いいの

秘 四ノ名中文事

廿一文字ハ文字ハ寸へ

秘 廿一文乃れあるちりくまりたいれとも

惣乃心心れ四ノ中文に心ゝ心へ

をいる人のうちゝ心つ心ノ名

やうちやるるれくををきへて乃ある事にをいる

人あるもきるもあるれ四ノ名

ゝれにかうこれれあるあるちハ

秘 惣乃ゝ実法ゝ乃へ字法ゝ心のとまゝ義

とれくゝよみ志ゝ人しあり

中文乃れるいよゝ抜ハ序也　惣よりをとみしゝ

ゝしけや

中文のれまれ乃中ゝ惣ゝ心をけふと見ゝあ

れまをよみ志ゝふいて

ゝそ志ゝ人るあをゝふ

中文乃れ乃の人とゝくゝ心のまき

ゝゝあるとや　四ノ中文のあゝ乃大る乃はゝ仏

にくをそ志ゝるをきゝれもゝのをきゝゝあるとや

心とする世界なりけり
花伝 よろづの人の心にあるべきなり心にてこそ
華 大集経の文に可論一切衆生心同是ありまして
とくよりこのかた世界の人の同じ心なるがごとし
そもそもありさまを心にあらきなり
華乃世と常なるべきなり心なるべし
うつこと
宇治文也
中納言殿のとくしけり
秘 七番に靡役りやと心にかけ殿と
仏言葉あるべきと殿のよと
白文の文あるべきなり
殿て殿ちあるべしと宇治にあるべしもしつべき
あるべきしき風のうつりて
殿とさらにうるんよしにかまちよろふ心あるべきなり
大方さうんの心

殿にしたがうべきなり
華中 花
いうにうあるけり殿ちとみて
中花ふり
さりとりよりたんとあるべきなり
白れば同じにしむべきなり
さうるべきまこと
秘 めくるよりつの名ある女房也
あるべきるべきるべきなり
秘 さわるべき
花 きねの名をとて
華 花は華ちまりしらとなるべきなり
乃おかを也
つまゆの殿とまるべきを
大方乃心にあるべきと
つまゆのさるべきなり

[illegible]

大夫乃牙上の就会ふり　為ちよ　苦とりと　弁ぶてるやふと
かつ〳〵心つうてるる　[illegible]
こ乃人りとうれあり　[illegible]
[illegible]　大夫乃心　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
いと大夫とし人のさ心をとふ心乃わるや
[illegible]
私志　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
仲文集中文乃内伯のとけ宣有ふで后よ　[illegible]
[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
大夫乃心中也　為乃事とふつた
[illegible]
[illegible]
[illegible]
大夫のきこ[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]
白文乃中[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

中宮の心を

第つむ身のすがに成るとかとれ志る時

仮名 世中をあたくたとへん物なりけるこゝ物の心の世なる

集 川音川 秘 年不行く

いつきをくるんひめ文を

年 四石中文脈の一品文れる

秘 女一文かや 和光 一品文

心なる 秘 石をくるとれ心なるかゝにやと心

私なれ心にしるかれまれ心なるとおもふ

中〳〵なる心をも

集 中宮をかゝるこゝまれ心まるゝ

[illegible]

[illegible]

宇治川のあるもしるさせ

うち橋れいとなるゝ

帝王系図曰孝徳天皇二年 道登法師始造宇治橋

七楽道昭和尚同人也

[illegible]

私勘載之

宇治橋石上鎖曰

沈々横流 其疾如箭 徐々征人 停騎成市

欲超重深 人馬亡命 從古至今 莫知杭葦

世有釋子 名曰道登 出自山尻 恵満之家

大化元季 丙午之歳 構立此橋 濟度人畜

即因微善 爰発大願 結因此橋 成果彼岸

法界衆生 普同此願 夢理宣中 導其首縁

[illegible]

集 初刊行宇治の川 [illegible]

おとこ乃ひさ敦
白文也　中方乃心に
ふしおもしかとそ
秘　芝也　筆
うれよ心のきこえしハ
秘　白文乃事也　筆
四条ものこたつもしう
白ハねの文風流ならぬ
ひやうにるもの
こゝ結ぶを心ゆれるんと
つもしく心しうて
中方乃心也
京にかしまんかとしるかわ
白書ねやうにも
中ゝんねるゝ
心ゆれるとい
社やうたわさん
（ゆ）

死古
ゝゝ文とうしはれて
円　さ遠の表ゝ
筆　ひ京に表ゝ
ものまとい
中方
ゝ
秘　二乃ものし
筆　中方乃ゝ心ゆきゝ白
とやかゝ
ねかけ
筆　中方乃
ものかさ
白文乃心
秘　芝乃地也　筆
白文の中方乃心乃ゝ
ものねは

けされもの〜あやと
秘 明るかたち乗ったる世を
心ゆ〜のと一さは
異 白文をかきみ切れて
三とうてうあるもの
異 白文乃保切よ心のと後を
世をいかなる日ことに
あのの中をけくを
秘 あるを
あるもうて
一日よ一〜いうていあ〜ものを
心つうよみ〜とゆ〜れを
大声乃心ゆ〜やう乃乗うれ
中声ちて〜あるあ世をたりてこれ
いと〜こ乃声の心ゆ〜つを
異 大声のさゆ〜よるけさ結つ中声いよ〜心ゆ〜つを
ゆ〜ねやに〜てゆ〜ふや

多つ〜に拾〜留事おりのゆ〜と
大声ゆ心我身よ文ゆ〜事ありていゆ〜くゆ〜とい
世つ〜ゆ心と心ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜といよ
中納言乃声ゆ〜ものをりて
苦乃心に白文をゆ〜ものを家保よの初時乃と心ゆ〜
〜ゆ白文をゆ〜ゆ〜
いと〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
白文ゆ氣色保切ゆ〜と
ゆ〜と〜ゆ〜てゆ〜ゆ〜
秘 苦乃初言ゆ〜ゆ〜て来ゆ
ゆ山さといゆ〜ん
何 石上ゆ乃山さといゆ〜ん
初時乃家俗
ゆ乃山里いゆ〜ん
ゆ山里ゆ大和国ゆ上よ時乃家ゆ
山里ゆ家と家俗乃里ゆよ
〜のをゆ〜
秘 ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

初時乃家俗
ゆ〜ん

いとつ車にて
白蓋同車也
秋ちつまきのとこまに
九月乃十日也　蓋秋乃月乃道付也
うゑしやうの道乃
車のうちの称也
山つもいく心まとのし
うゑしやうの女也
白蓋はの人乃はいきりのひ人乃きりふ心也
けりこんのうのあへなし
蓋也
にんいうのいかせさりけりと
大方乃心也　蓋乃やうのうん
ありこうとこるもこう
見を大方の心也

宮とおのつけくいとこにこつき
蓋の別して礼とこうこるはまに亭主乃心也
はこを蓋内へまりこう
蓋とおけまにあいしらのこと
私とか又まこうとあもきはまこうとつけてみ乃
字とそ奇仕まこ乃ま乃へきん
こう見分てはけそこにいとおしくて
大方乃心也
たりまにくこうあるこう
川ふ
人乃はうにくこもとこうこうこう

あつまると心ゑんの心つも
秘 しれにしてあまいあつまるこさ事と夫婦中にていつる
きふつよるれかゝ水ゝ花世は心りちい殊勝乃事也義
とれ不奇心ゝあつく
義 菖とゝ世上むさ成ゝ事ゝ
ゑ乃れ有りけくゝとといきこゝ分へと
秘 白ゑのあつまゝと菖ゝ大ゝ花といふ心義
幷 姫ゝ乃菖にといふ
私ゝ称ゝも白乃れあつまゝと大ゝ花菖ゝ心いゝ乃ゝとあり
け義不変見ゝ花一ゝ大ゝ人ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ菖乃大ゝ花ゝと
ひゝ乃ゝ心 いゝ様に成ゝ
寄あつくゝ成ゝ乃ゝ
秘 白ゑの姫乃ゝ事とあり
幷 菖乃ゝ乃ゝ白ゑの姫乃ゝ事をあらにゝ乃ゝ心也
義 こゝ心ゝ乃ゝ事をこゝ乃ゝ
秘 白ゑゝ乃ゝ事ゝ菖の大ゝ人ゝ乃ゝ菖の心
秘 さゝ心ゝ乃ゝ大ゝ人ゝ乃ゝ事ゝ
私ゝ乃ゝ不変

心ゝ事ゝ成ゝ乃ゝ事ゝ大ゝ人ゝ乃ゝ菖乃ゝ乃ゝ心也義の後
ゝ乃ゝ乃ゝ菖ゝ事ゝ心ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ菖乃大ゝ人ゝ心也
秘 しれ心ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ事ゝ
大ゝ人ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ菖ゝ乃ゝ心ゝ乃ゝ

つもりしるる面うけまもつ清遠
何たゆ歌 哉にくにみゆるみし〜多るくるる面うけまもつ多るまへ
秘 けさい津乃ふにとろいくるとも也けさ字法十性非一乃初
るるしとせり方哉るるまゆとい〜哉
并 哉にくるる乃方此心人けさ法有感
うとすとこのいてんしいたるるるる〜きい
到まいるを哉とる心るねあうる見にるかさけんを哉んい
けるもうるるきとあいしらいるる初んかり〜ろしう
とまし〜とれ哉〜ま哉みしまる寺るるる也
かるる心にるめるる也
心やいるるにしてけるるへそあるるといるり哉乃羽
遠いのをいるるそあけね
何 雲乃井るを哉いるれるるにしるる〜きいちのてをるん
第 ぶにいるるのとありしれも
私おりるいいるるのやるるそとあるるの時いけしふし社とい
るるくるるるるるとせ〜まあるこよいるるのけるけるふけ

遠い初めつきかるくるるるかるでをいるるとるるるる〜
けるるるるるるかるるるるるるるる
哉
秘 哉いるるる旅のるるんるも
秘 哉乃るる稲のるるるるるる白哉いるるる哉いけるる心 并義
女哉いあやし〜ときてあふ
秘 中哉也
哉ねをいるる〜うかる〜うる
白哉のるるいのるるやをるるねをるるいるるる也
女るるる哉いるるんんるるへよ
白乃庭乃心をるる法るる孫を法るるとるるるあるる
くけるるるる也
六条院るる右の大いるのるるいかるるるよ行るのて
秘 たのかるいるのいる霧也
并 釈行なる右の大原とあるけさ乃大臣よ
如久乃方るよるるるる〜るるん〜
六の方のれるる

久兵衛の古文と白文のうけひさ結ぶとうゝゝ言ふなり
作者を六条院中宮とむすび申事なり
なるべしていとゝ美しく侍りけん
なるてはれなりとのきこえ侍
秘 大ゝさにはなれ人なるべし中文乃ゆゝしくあつけなくきこと
なりつゝよいとなりとも
私乃文つゝい白文よりまゝ侍ん
り世中うつてみるときさいはれなり をきこう
紀 白文と四位よりつけそまちんとあり 必事也 所とある
八中宮と右にとゝそんと白文乃なりしるすや
系文四位よりきりのて後は白文と系文よりとあり
とせめ時は悪不にてあり名人なるべ
系文にとなり とき けり事也
今上四人中文也系文四位よりきりのて後は白文と
中納言三系文つゝうてゝ
紀 四線乃涙恋の新造あるや

作者ゝさはまりてゝ
秘 恋ハ大宮ゝとゝてゝ
かゝ見よりのやと
ふゝゝゝくゝ
恋乃心中や 内ゝ中文ゝとりさやと
かゝつゝいゝゝゝを
秘 露形ゝと恋ハ
ゝしゝゝゝゝて
作のゝてすぬやうまゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝに隠密ゝんゝゝゝ
衣人なゝゝゝゝ
秘 十月よりゝや
紀 冬乃更衣や
三十乃ゝゝゝゝゝ
河 御帳惟壁代
ゝゝり結ん心ゝけゝ

恋ゝゝとゝゝゝや
十月朔日や
ゝゝゝゝ

三条実へ大臣をとうさ殿とも 申 井 殿や

十月ついたちころ

十月七日より以前なるべし

とみちかはらんどぐら

花園殿 うちの山の紅葉をみせ給ふ 月 なれば 宮 殿 中 宮へ

右の大かたのつ宰相中将 秋 のあはいのあとより久 霧 ふれ 息 義人かわれそ

こうけちふうなる

秋 れ中やうりうわけ 宇 宗法 実とし

ひきの長し花みよ

宮 惟 おはしまし事せ

こまやうきこえ

蓋より宗法実へわんこころよ

りみちの名 紫 すう〜ゐけ

ゆかりをゆう〜けるれと

たりけるかり〜ろくうり

秋 皆 蓋 より〜久 宮 事れ ゐるれいゆう〜けるとや

宮 ゐまて 親 服 の用 ゐるをう〜云ん

ひらじ ゐのれ ゐりさ 風い

秋 白 実せ 宮 平

りみちとつきくる 春 の ろうり

白 実 の れ 座 春せ

花 園殿 義保 の 大 井 川 の 行 幸 よ 春 を 紅 葉 ゐそ ろとみ ふり

秋 花 宮 義保 の 例 をの ろ

けるよ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ れ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ

ふせんらくといわるるこころて

河海仙示　又海青示　貞鐘調

水遠よりして

文はわるるの海乃心ちしてとちかくしんのうこと

河　いかるかれるあるれはかりてふんとみるめるしてあいのい

花　七夕のあるれとりくるりて海乃やをちまんのつれるうるん

と紫白文いみるいかう事とわるるの海乃心ちしてとこ

ろて　をちるくんい中文心

秘　みるめるかきこと　平　笑　みるめるかきれ心

私　紫白乃引海しかりしてうう　あるは七夕乃事ありと文

をちかるくんといへり

笑　詩乃類也

人乃をちるのまかしたりて

秘　多ちさいくんとそうしたるるくと也

秘　うの文にはかをしてしと也

内より中文乃あるる也事にて

笑　四ん中文也

寄れ乃はるよの赤門者

秘　久勢乃息　笑

私白文の心保しる事れる寄れ中ものの也

平　同文右赤門者るるん海乃をつくり海乃をつる官ていや

一答乃右を赤右赤つる乃右吾出仕ると必海乃を

笑　奥也

赤門無赤　ホン　府乃海乃をつくる

をのつくることいろうく

かするくしくきとと中文れ仕也

文しかしてい

白や蓋や

くふうてとおかをに

翌日しは遠義あるくしと也

又文乃ちゑさうの殿上人ゑと
中文大まや
光ハ盤目に多れ乃心中文より生りて心
こゝ乃ハ心をそすつれ乃多人ゑ中元へ白より文あるや
ゆゑ乃ゆゑ
中元より人めとつゝて四ゆゑ乃ゆゑ
教乃ゝ乃あるを行まりたゝ
不肖乃人ハ權つ乃ちゝ
つゝゝも口ゝ乃ゝゝと言ゝ乃ゝ
白乃おゝをゝつゝゝ文教乃ゝ乃ゝ乃ゝ

[illegible]

夕霧二男 宰相中将 除宰孔中将 秋

いつ[illegible]やと花乃ちりまよへめらし木乃もとさへや秋を乃のらき
宰孔中将 秋 宰孔中将ハ夕霧息也いろ乃ゆ乃う文字清てよしへし

[illegible]

[illegible]

右衛門督 秋

いつこゝろ秋に行ぬらむとゆる歌よ[illegible]

秋

秋ハ行ぬんとゆる歌よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらいうらとうらやくうらう

秋 かるいしのはたをいふらんかとやそ、仮けてハ有ふとうらうめ

そう事をとふへ〳〵ものそ

〳〵こにそ有いわるけいうを

秋 宋伝文也　業

ひすうけ〳〵つるへとも

恋よりもうけの為に第〳〵ちるへ〳〵

姫 恋ハ物とにさく月夜の色ふるけらうふり〳〵

何方 いて人をとにうよりき月夜乃うて心ふ人あとにて

あいなしいかくに伊勢人

引歌 日

大方乃白雪の心をもうをよりい〳〵わるく〳〵はるうを心を

かをことい事ハ知そう〳〵とふれ

是ハ恋別乃男乃うへとへのい〳〵と言やるふ也

秋 うるはる〳〵うは中よこそ

秋 乃つうるの人これて〳〵ことはをるれと心うる〳〵也　業

ものうをきりよりわ事を

上腹をハ人ともうるあうて実るへきとおりい〳〵

おとも

あるめきうへやうよこ文をすつる人かいく

秋 花八文と白雪とおり〳〵くうをとうるい〳〵と

うみかうりあるけ心を

中文とみかを〳〵のふやうるる心

をろ〳〵けるへうをうも〳〵

山文にさふ〳〵人乃事也

いとるやも〳〵

これまて皆大方乃心事也

ひう〳〵ミハ〳〵海乃ひたいうるハ時

秋 中文ハ也

くるいめく對面也白と中文と

うるきさ〳〵これハ

中文ハ恋乃歌うるへ事乃

とと結句のをあるもとも

言葉にあらはれしこと
中古と言ふなかにはあるもすこしの心にていはれぬ
ものにて世間のいろいろとつくろうもの
をきかとにおりてとい語らねめよ中古の心もうつ
ゝ也
きいの人めきたるもまた世のつくる
世間法の文のたもまねれとわつうらあらねめつる白文のうち
白話のもとあるもの大古人のうらかゝきこと
ゝれも世にあるうへ
大古の心中
中納言のことは大古人の心をまこらあるてゝ也
中納言の伺ことは大古人の心あさく言なりあるやうの
白文ゆへ苦とした大古の心あさく言なりあるやうの
事ゆへいろ〳〵つまるてそれ〳〵中也
いろ〳〵やうのきりこのあ也
一家二家これ苦しいのつまる人に心あ也いろとゝるあ
ゝ也
ある人のうりもの屋にうつくしきものとて
ある人先まくよさうろうへ也苦へ大古とあ也〳〵そもつ
ゝ八事ものこゝろ也うりもの屋八中一元の事にとうる也
りてあきまねへしんやり
人の乃苦へうるんちんとのるも
うる事りやあんのいさめりうり
ろ〳〵しき心あるあと八文の出遠言わるもて言いそころ
大古の心中也
ものうへきんにうとそれもうやうのあと
やうのあとゝいあ行とにあるこゝろ
ものあとゝ心也
一やうのるも中古へ白文のとゝしきは文和と苦よあれ
てゝし面あるを一都よさうるうとへの心りんかとよ和くた
ものあるのあるゝと大古乃事とも和名ノ事也
心ちしもとにうるゝ名れた
秘
為にしるるも

この爻をよくそまりりゝ
中爻也
ゝゝりのさゝへにぬ〳〵ゝゝ
白爻といてゝこのまゝよりもそりのてゝゝや
世年まゝゝりまゝゝ世いの人ゝ
中爻のゝゝと面白ゝゝゝ事ゝと大爻のゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大爻は中爻と二人のゝゝ
爻いゝゝゝゝゝゝゝいのやゝゝゝ
山家京へゝゝ今ゝのいてやそ宇法へ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
内い内裏也
伯夷ゝゝて五穀に絶ゝゝ
右は〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
久勢乃みゝ宜法へ中爻の作ゝゝ
右乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

久勢乃六爻心白爻に同心ゝゝゝゝゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝゝの事ゝゝゝゝ
ゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八爻のゝゝ
中爻のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大爻は中爻也
爻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
白爻乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
爻は大爻ゝゝ爻の中爻とゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
白爻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

白河院の御所に、さきの大納言師時卿の
ものまゐりあはせたまふ後朝や
ものの上
弁 引歌
うらのこまもとうの思ひ草をとりあつめ
ものとしてはいかゝらねばかりなく
秘 白河殿
れいのとのゐはいとよきこゑにて
秘 四位中将の心ありとかゝるこゑのいとと
実 同上
ものゝこゑよきこゑなるよ
実 白河殿にまゐりあつまりて
秘 山井の春雨にて白河殿とはいふるや
弁 白河殿の上よりいとゝ
大納言四位中将
時雨のうちしてのちやゝ
秘 十月七日
乃ちかゝるこゑにて
廿一日の四位のこゑよ
実 白河殿の四位中将
ものゝこゑのいとよきこゑ
白河殿の心は世にゝのこりと
迷ひ院のいはゝりこゑ
実 弘徽殿の女御こゑ
うちわたりこゑ
白乃冷泉院乃姫宮
うの山さとに住ませたけよ
実 中宮の御方を心ゆるしてゐる
悪ものをこの 弁 おたのものゝ
ものゝこゑ事なりて 実 宮
秘 秋の夕のゝ仏ものゝ

[illegible]

秘 寸絵之と字法へくそまろんと

[illegible]

きこえ多いてよいてそ字法へ用んと

并字法へ七絵事

さいみる和うもうえていうとにきんと[illegible]へる示乃

伊勢物語むし[illegible]おとこいりとのおく[illegible]きとんとりて

うゝ[illegible]を称うけよ和うゝ[illegible]ゝ[illegible]とんのしもとをまもりに心

ときこえまるゝ

初茅の所とゝ[illegible]きとの歌んうゝなゝ物とありのけゝ示

琴并伊勢物語に五百尺至大和物語

秘 伊勢物語乃絵事 琴の事 伊勢物語に在大和物語乃

[illegible]も流布の大和物語[illegible]ゝ事

寸ゝ大和物語おりと伊勢おりて引尺私部忘ゝ大

和物語に寸事おゝ事

実 伊勢物語事

いゝ[illegible]ゝ[illegible]の人とけゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

白文の和心

いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

女一文の何絵れと[illegible]

秘 白乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]

おゝまきよせゝ

そうゝ和ゝてゝる人と

秘 別腹なとといゝるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

白文 [illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

秘 わゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

私をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

こゝ乃文をゝとにゝ[illegible]ゝ[illegible]

秘白文心

とゝ[illegible]ゝ[illegible]

とゝゝゝて

并 女一文のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

女一文乃れ心

ゝる[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

秘 伊勢物語の心と妹とゝ[illegible]

我と寒切よりうるわりかるに色さいまれみるに心うは
まりうるあとはいつくはにうきまき幸とはてや
しきれのうへのうわきうく
秘 竹葉子地や
こ乃二とうるとと
廿一文句文や
心乃うるのやとき
花 蓮華の人乃心を花うつろいやとれ物れありけり
秘 句文の心七廿二文乃心かるのやかるらや
うるうるをかりしとそうおりかきぬう
字法のすと
まちきこそ文へ
秘 字法や
中納言おりうう
秘 字法へかり
あやまりけるうのつときうて 秘 大唐や

おるうきあうるけきかとと乃りきうを
秘 蓮乃羽也 聖つまいうとや 聖
おりういうきうきとうるうるうる法へと
大唐乃あまり心やをき祈をれりを心也
文乃心しゆそれりうにしい
秘 蓮の法句文の廿文乃事字法へかりまそ心もゆのあを
秘 蓮乃羽也 大唐をなり 仏めるる心人志けりうるる 九よ聚
四節乃ついくうを廿乃乃いしいを
うにいうしあるもきこそ乃うくさり
秘 大唐乃羽也猫唐い伺とも心字法へるる也 聖弄
あうりへのいいさめこ
九文乃句文というるうるうきるとのるのて廿とうきう
事にうるのしまちいさるるや
いと心をうるれさへいううき 蓮乃心也 弄 聖
世界いとそうそいとうさ海うるそとかるくるん
秘 蓮乃 聖 あとあまり 遍屋とあく一具ようろ分をとを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大声の、[illegible]

[illegible]

[illegible]

けこれいつまでとんとの事うくかるを
秘 ゆくしにかりつると又仕てまたのんにくるを
幷 又世界のくりつるしせ
きてりかいくれしてまくる
秘 大声のこうくるこ心 幷 紙
いまはくくりてこん
大声の心せ
中納言のおとの心を示をえして
紙 苦よくくり給てくりとさまく心くくちきりのくるよ
大声は心くるくるこれより毒のおりしせ
毒よくくりとまくるへくもおりてませ
さすて大声の深せ
きうねやにてねくるを
大声のんくの心を示くくるくくきうねさ後それねくるせ
紙 くくけるくんくとくくりきうねやにてねくるくとくるる
まてい中声の心用しき祈せ

姫宮初こ対のくくとすくくくくねの
河 あくちくの初のいさめくくる孫い初宮のりきりれ給
秘 引歌くくくくしし 仕方にて来へきのくくり 紙
幷 中声のまくて 引歌りてくくる
私くくよ姫宮とい大声心くくくくくくい中声せ中声のる
くくしたくて姫宮は尺ておりい心せ
和歌
幷 初孫声の和歌をかくくくねくくを大声のまて初おり対
私仕用といい中声のくくくくねくくくくくけそくいかを松にく孫く
すくくくくねの四方はくくくくくくくくくくくくくくけ
くくくくくくの是まりくる和歌をありくくくくくける
かを姫宮やりくくくくは初のくくくくある姫宮をくくくくくく
けて心くくくくくくくくくくくくくくく

古文乃ことを大方のれうしやはしと仏法に入らん後世
をこそ言ひ伝へしに人ゆゑ也
あらんずらんと思はるるに
元 大方の仏法也
ひろめ乃方法のいとあるべきことり
秘 中方也 幷 義
こ文の義にみちかくいとあれてうしきちきにく
秘 中方の義也 幷 義
大方乃逝去あるべきかなあれなるべ事よみ人のあるべ
いとしきことにけるついて
大方乃心中也
うせりいてのちいそ義にも
秘 大方乃引
人乃国まあるべをせうのそうそ
秘 反魂香也
元 香文人の九年也義にもとめぬれよ大方のこ事也

元 十例記云聚窟例在西海中由来地上有大樹与机木
相似而葉香聞数百里名為反魂樹死屍在地聞気
仍活也
九華帳深夜悄々反魂香反文人魂文人之魂在何許
香烟引到焚香処 白氏文集 他国 ヒトノクニ
李夫人うとて漢武帝幷泉殿乃裏よ彼こそ
を品して方士をして霊薬と合ちて金炉
焚しては香乃烟乃中よ文人乃姿みし事也
ありしを守こ如こるにけるわ
秘 付面うちしこる形うせ
ここ形ありあるる也
けるこいこをにとこ結ひも
秘 中方也
形心こうこく
秘 大方のあ例なあるれ也 幷 義
ちるるもあり作りるこ
大方の形見のこと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みゝるしよけう
秘 いつゝ俗のもれるゝ人のよを
ゐとあるしらゝ
秘 あるもゝき事やいろりにてあゝゝゝを
幷 ゝゝあるんよりおとを
集 幷乃義ちゝるとさうこの心
世にありうるきれはまかうち 白乃事也如色をゝの
うゝはゝてゐるとふを
秘 白文にはいんのゐいさやそゐゐゝ
ゐゐゐゝ人乃心よを
中 赤心よをゐゐをいつゝ
さゝりゐをときて
秘 中赤いさりとおかをせんいきはかをちを
ゐるゐをを心れつゝはれしけう
集 中赤いゐ佐ゐきのある性を
いゝゝゝこよいさりゐんと

白文乃心乃仮乃と来ゐ乃ゐ幷ゐ乃人を
中 ある色ゐるゝ山乃里いあるゝはゐゐゐ

六月
久方の

秘 十五夜月を見て

和歌

宮法師

たちかへりなほ

秘 山里の人を訪ふ次

和歌 おもふ人たちかへる

大文字に行さるのを

秘 四人中文

和歌 六月ふるやうのをくしきを

月らんをまりにきかせる

久方の中文の作らせ

ものいはぬ

秘 中文へ初おて逆にまりし

心をもつて是を詠ず

秘 白の心を宮法師

中納言

秘 菖と白文をとりあつめ

心ゝ

和歌 菖の中しらちりのあれば

菖乃阪忘心にて白へ

秘 山ばとゝいひたると

菖より宮法師へ

こ乃月をありてい

十一月

秘 ひやけ

和歌 ひの花のあ涙

折ふしくまちふ詠

宇

万事一枝て菖乃宮法師へ

うこいとゝ

和歌 年末月大乃月を菖へ

二乃文九四年
白文乃事

心うく作る命乃ふうさうて

私芝

私芝い年文乃利乃のうをとじ
ふるかうとつけ給いけりけ
芝乃かとうまての初や
あつしうるに入るふ
まへに入るれし恋や
四しうとるやうして
大文のよりきさまや
うれりくゆるふまて
芝乃羽や
迷いのおさり
字治の恋関和や
迷いのあるうにと

中のうやうとあるかうるかう
芝よりうるる事し
四中と知りて写れ給わ 芝乃有の者とは体とうるかるもし
白芝作りうるこれのりるれの心ふるうし
そうしうして入る
大文のねりつるTの内や
ふとうれしうとうる
芝の初
心ちうそりてふうる
大文乃初や
ちかつるりて白作りやきうやと 年 師匠のうせるとや
かくまうれそまりつるかと
芝の心や
私 芝の初く
私 作りうるうやうとくを
作りとうと
私 作りうるうるとうるとうると

秘 温也

花 うらに温氣のあるを見る

あたにのつゝまれた心ちにる

秘 菖の心也 家

花 六根清浄 まゝりて神よりはじめてきてしらるゝのあらわれ性これし

しのとけ〳〵けゝ

菖の心也　胸のつゝしいるこゝろ所也

四ころこゝてまつりたん

秘 中道の菖のりゝ也 家

平 さゝるのゝるゝこゝてこゝ道切りたんとゝるの法いる也

もゝうこゝろきゝて

中まゝるゝ

ゝゝるゝてゝゝわゝ也

秘 菖也

いとゝゝゝいゝゝゝゝと

家 大方の心也

かのゝゝ法ゝゝの人のゝゝゝゝゝ

秘 白衣に心ゝゝゝ道ゝゝ也

平 白衣ゝゝ心ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ也 菖い新んゝゝゝゝゝ也

心ゝゝ風ゝゝゝゝゝゝ

菖の志の愛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふるくしきまよろと
八文字ふるくしきるハ浄土や
さいけころ義よるん　何　近曽　サイツコロ
いちくうちゞくるよ
姫元くちのるくしく
くるよるくいて
あさり乃分際よるくいる事ゝ堪るよ法ふゝ
るにくのわんちるん
阿弥陀の念仏とてにや
弥陀念仏の事　秘
弥陀稱名念仏のるゝ
天台疏論　念仏　阿弥陀佛　昂　念仏　切佛
法照禪師　至五臺山至大聖竹林寺逢文殊照問未代凡夫
修行難成就願斷我疑納文殊曰諸修行無如念佛照問
如何念仏　文殊此界西有阿弥陀頭刀不可思議
常不恠　ジヤウフクワイ　ジヤウ　情　ゝるんつゝを仏る

ゝるくゝるくゝ常不恠をゝるくゝるや
私八文のゝるくゝの常不恠の切作むくゝゝゝゝるくゝ不乃
るかるくゝ　秘
つゝをゝゝ礼拝乃るゝ
我深敬仏不敢輕慢　以者何仏未皆行菩薩道當得
作仏　法華経　常不恠　偈トアリ　品　尺　因位ノ不恠并ニ
ゝ文字乃文を唱て四衆を礼ゝくゝくゝ一切衆生の
仏性あるゆゝ功ゝくゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
姫元のるゝ　平
ゝゝ　芦ハ蓮のるゝ　何　詠てや
かのゝゝるくゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝまり結ハさるんさるゝまりて
元　三有とてハ中有中有生有を云まるさるいまり結ハるくゝ
中有のるゝいゝゝ　平

きゝうしなり

大夫

うのはうつゝなるものゝうちに黒くあるものをきけるを、
けはとあのやうに不恒并乃まゝにて芸実ならぬを唱へて
あそうあるにこそ

いとゝふうとく法

秘 孔雀の音心なるてとゝふ心

ふるこのすゑつゝ

四位

秘 舟保敦仲朱敦軽傷小の文うゝて
ゝゝとこゝるにまゝこゝ

秘 芸心伝法よ四ゝのゝ心や 幾

ちちよおりつゝ

中夫の大夫とおりつゝなゝゝとや

あはやたゝるゝ

芸乃体

ふゝやゝ乃雑いゝ

秘 芸体芸乃ゝ

をゝゝゝゝゝゝ

秘 をゝかゝねゝ法乃

雲あゝけ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

不恒乃教とゝゝねよゝ

秘 芸乃ゝ心 よのつゝゝゝ法乃教ゝとゝゝ

乃教ゝとゝゝ不恒のゝ心ゝてよゝゝ待のゝゝ

毛詩関雎篇ゝゝ后妃乃德とい巻とて雎鳩のゝ

といつゝ紫や

つゝゝゝゝ

秘 白文よ芸とにゝるゝや

中夫のゝ

弄

返中夫 おゝつゝ雲ゝゝゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうのことをぶしうも
秘中宗大夫のすることをいてさて大夫のせ
私見ハ菩の心に姫宗ちの事と心ゆるしてさて大夫のせ
法ていとをさくさくすん又中宗恋ふるやうのことも
大夫のかりうかりかの物とおそるハいとを心ん
仏あとの初文乃菩ちしとふへてけてられも菩の
心地へ
文よ菩ふみ法ちんをしまちかりかりかりよ
秘菩乃心せ　加文のれしあせ　平
かう心ちきれありかまもと
姫宗しちのいうへと心ちくおりもちるへしとせ
たりまりれるに
平八文乃念仏よりり法ちたてふのの用意
こころくよれいのりものつる
平芝ハとの形りせ
ちりやけうちちくにてれいとものちりア法て

秘菩せ　一暇文をいてあるよりあるせ着ハ何ケ月
とく暇文と　巻文出ち宣しる事せ
花暇文　假文トアリ
請假文　若干箇日
牒依其事　取請如件以牒　治病ニ人者
年月日　官位姓名
うちとしてくる
大夫乃初と病乃ちちんまりりの
山宗のくるい弁く
平菩のりのかりてるり心
いまけりているまんくるなり
ちるふりてうく平假ハ法く菩とかむき法ゆんりり
かくくと大夫のかりもせ
かくりとしてそんそのをこちりてる心とて
大夫のか假ちんようけてしたるりんとせうまれ菩とも
くいの迎ちるいあるとおもまあとをまたりのあのそうんせ白

文のまよいなくこうるうめてるや
ちゆうまつしてうんと
（秘）おかぶのうせ　秘伝のうあるうへしーとや
いむ事ゆんいとうてありて命のつるのとうてしーを
（秘）いむしすの受戒せ　ゆ乃戒とうるとしてふるいのうをとて
やしてうけ伝といあはるうるとしてや
たのりしへもとつるなく
（秘）菩ともとつうねせ　弄
くこうりわあてれて
菩の意伝よおりもうるうせ
きて
ゆうてえてや
ちうえはしーうあ
うとといあせ
こうのあうりいうれうーと
（河）豊乃節　書　一云日本記　寛の宴ゆとのれあうりとうり

されいの乃寛をいあて　但芝八豊乃節　舎のうせ
（秘）辰日せ　弄義
うとてやをはつうりや
（義）大元の事せ　けもにてやむしるーこあさ寿と心ふ菩の心せ
ーこありーまれし迷いにあーて
（河）ーこいうと例はたうといあや　遺例せ
秘迷いにあーていうのてよありーてせ　な伝のうせ
四うりしけうて
（菩）菩のうる元せ　弄
ーこうり日うけとれこねおーひにに心をとうをとうにしを節
（秘）豊乃節　舎ふれい自蔭のうづーをとうる日ふれ伝せ
（弄）宮伝よこうりあうーまを四せ　お節の日系うよを元こう
（元）高光集かとうーをりいてのとう新嘗会の氏内へて
えまうーて内伝のとうよ
元うれのうをうりとにはーこうり今の日うけとれるふーき
七楽新嘗会元乃節　舎ふれい忘とうる人日うけのうう

とふ和と冠にうゑ日陰草とわけうゑけるを云はとて
むまいくうゑは日のけまるいうゑ日陰をとりてゑゑと
ゑと日の花の第一にありうしら事なうゑ
くくくてあるゑを
草とへとのむゑ
いくあるくく
秘 草大者へのゑ
くくら弥ゑくくこゆる
あまくあるのるん
和おるくゑなるくる
秘 大者ゑ　秘大者のゑくくいゑ
くるくくいまくく
秘 口かくくくくくたくくくくく

かくいろいろ物心の（こころ）さまざまやさりん

秘 菩乃初年

こと作まに世を

大天乃かよ心乃とまるね事とけ乃りた

ろし仏を祈世を作をろ人と限り

菩乃作まや

ろもろ乃ろ乃と

菩と仏をへろも入をの仏のこころとや

物乃ろしゆくやうにて

大天徐実乃作まや

菩乃心や

あ〜ろろ〜つく

仏法物語かそらめ

あ〜ろ〜ろてあけるい

中天とのけるる

中天と避るや

仏法物語乃心

いきさけそまろる

秘 中天と避るや

かくかろ心〜乃ろ乃ろれやさにく

行古 うつせこ〜ろろ〜ろ〜ろ夢の山乃ろたにて

花 蛙や法のをわをろ

秘 ら法蛙いろ〜ろ〜ろの心あり 年業

命〜さろ作あへきあ

菩乃作まや

菩乃徳仏乃祈ろ

ろ〜ろわゆむやろ

花 仏法乃巻ろ法新あり夢の巻ろかあ〜ろ〜ろて

あつ〜ろ〜ろ是をろ〜ろ〜ろいろ〜き時のろ世を乃

ゆむい心のろれ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ祈や

ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

花 あけ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

時の短しむ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

世界

四つをにうとけるる人

秘 菩乃ろ〜寿ろ人多きや

しつらひきよらかにうつくしさを
白菊のうとくしくもあるとこそ大殿とかく
うせたるを中宮のおもひもとるる
又るにんまみかふ
秘 ふるるるにんとも中宮のおもひのあるかしのおもひのあるもの
みなるかと
私大殿のもとにおもひなる話に中宮と又あきにんなる
ときかとこそあけきりふとも
菊ちとれいうふるい
秘 中宮の事
系 白菊とり和こうふるいかと心
心うてよつるしと
秘 中宮にとこそ問るる
おかしかりて
并 あの宮の事
いとうきにんにゆりて

中宮の白菊とこそ

こ乃宮の御事
系 中宮御事
おのるのしやうに
系 大殿乃とのの時のるのしるす
ちるのいとうとけるとうとも
并 あの宮の下乃心
うつろふつくはたりさうし
并 菊乃心
物かしいとうくまつるとりは
中宮の白菊ゆめ心まて
をろるるるけうしるんと
くるいとわまはれのあのうるわと
菊を姫宮とふるいの袋とあるゆの服衣ときる夜ふる事 并
系 くまおかるはるるるるるるいかるるるの袋とうるわなるる名
秘 女事てるるるるやさうるうんこのるるるとうるやとるるみせ
秘 袋のるるもしゆるる有衣ときるるるるるるるるるるるるるるるる

ゆきの色のみをけぬるとこゆるをいとゆるしてゆく

伺 菖蒲わかゆるゝ色をきるゝ紙ちんはあるゝ家とあるゝ家
乃紅をゆるゝ色をよまれていろゝ物うけぬる家よりぬる
ゝしるや神のゝらるゝと云心

花 紅のうちのきぬゝ物乃やうゝゆるゝやゆるゝ物ゝ
物ゝ作り物ゝゝゝゝるゝやゆるゝ
事といふゝ氷うけぬるとゆるゝいふゝ
と心うつゝ

秘 花合流をゝゝゝゝうけゆるゝとゝうけぬるゝと云あるゝ
ゝゝうけゆるゝとゝ物のゝけてぬまてゝ心ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

新 うけゆるゝ物ゝ事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝのゝゝゝゝ
やうに菖のかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘 菖蒲 中古乃事 菖の心

秘 中古乃事 菖の心

私心むけゝゝ中古と大古と菖の心ゝゝゝゝ

よゝ乃人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何 清か細て松双子よりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃けさゝとうふのけさゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何 遠愛寺鐘歌枕穂 香炉峯雪撥簾肴 元天

橋 山ゝの入ゝ乃ゝゝ乃形ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花 夜乃明ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夜乃明てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新 ゝゝゝ乃月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘 夜よりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花合流いゝ 新 平古汚古家とりゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同西首同　雪山の半偈をうけて　鬼神のの
雪山の草のあるをさしたる花なる草をとりて
き敬向るうへ
るはるの偈をうけて　鬼とうを

諸行無常の偈のるを菩薩の心はけ世を弘をとめかくさと
諸行無常　是生滅法　生滅滅已　寂滅為楽　涅槃経
雪山童子求　法有千丈　現半偈先　説後同以求半
偈曰　飢未能説曰食何新血肉童子為法乃捨全身仏
同中世夜又帝尺化身世中阿含経涅槃経説同之仍略之
心きくるるきいしをいるりけ
心とは身をとをそなりて半偈と忘れて鬼よりうけく
いつりをと心きくるるひ
心とそくるいているを
るきい心にしめて
老くるはくるはくるはくるう　私ふるさるうをの菩薩と学心
老幼をおいるる心
くこのるの世をとふるに　半白るの
けるそたるのるるくるくる心
師云の中云るる忠いるるいしを
あいるるんの世るんと　中云のるを師云のるるを

うらこころあちきなさまを

平 意の心

何人かはうらさ来中に

秘 京極黄門つくれりし山ちとをてとりんまる来ふうら

雪のきしきにとあめるとけてうらかるて京色と

ふるの為家ていきつつ初されをけるにとをそいを

きとぶくていや雪乃はけりそとあるとくきとりふる雑

雅也

文うらのはれに

白文の狩衣をかりにてかりしるや

秘 はしくふはるとのううらうらとれと

秘 三十九日のうちや 平

白うらのつるはとまるれあつき

白乃はれか保切の附ふやはは日来乃はれ跡をれうを忘れ

めつることや

文しあけきてうはまううしうし

先中文の流儀文の秘書のをとあけうるれし事と

ふるわしるや

秘 大文乃はれ事とあるうを語しる

うるとされ語りと

大文乃為生の用る句文の点うう意切る事とみと

語いさうしと曲ふしたまんい

花 とうう涙乃はふあるたまんい

先句文のとうう涙ふるはしるとと流儀文乃

たうるふつるふ孫とうのるるく中文ふるるや

秘 白文乃ふあるたまるるや

平 句文乃心はるるや

日うるのとうるつるを

白文の日うるのをを

つるるふるわるて

中文也

うれいとあるるふるうに

秘 中文はあるるるうははるや

とゝしなつかしきまゝにやと
人をのゝとなのこゝろ
なつかしかりとをもく
内裏よりとゝなりゝん事をと
いとゝとゝいなんと
白文なり
いまをうゝ和おうゆゝ
中宮より乃出給也
心あらんやうるけりゝふ
白文乃心あさき事也中宮へ恋乃人へ
にくゝゝねたまにうゝゝ
御事ゝの心也
ゝゝゝゝ人ゝと責動ゝ
動南也　ふゝの初節木巻にゝゝゝゝ事をしにく
ゝゝとあゝゝ初ゝあゝゝ
かやうゝ事ゝゝゝゝ

ゝゝ人にゝゝゝ事ゝゝ
なゝゝゝゝ
いゝゝけゝゝゝゝゝゝ
芸の心ゝゝゝゝ
中宮乃心也　けゝゝゝゝ
えきゝて給ゝ
中宮乃あゝ行ゝゝ
きこゝゝゝゝゝゝ
芸ゝ白文乃中宮心ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ行ゝゝゝ
白文乃ゝ芸をきゝゝゝ
ゝけゝゝゝゝゝゝ
人やゝふゝゝけゝゝ
白文乃ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

行 ちのつるとのあるにかりかまくらの社と尊あれはるん
秘 引歌 同 幸 幸家心 見何由
えうとをもるもーうらうと 秘中京の白と云るもあれぬこと
きしーうるとをいうるもるかさるをゆくまくけて何るのむるん
幸 中京家
秘 中京家七夕にしーうるそれはるさたのるいたるること
私ーうるいあるーうるめをこうい何るるきに文ゆくするこをを
何るるるるるとやたのむるんるる常れぬるに心うれ中京の
しのむるきこゆ也ふしのむるうんるる文字るとれて仏
うへきこにやはるを白文乃るるるるるるるるのむるも
中ーうるいふせ
ゆくるを白文るるれるるるるるるる

くてれあるとあるう
つれなく宮法ある結て内ちとちかとを怪り結ひとも心　年
私つれなさ中元の年心中元へつれなるあひよ内ふと
きうあちくあしうくとと白の京へうりゑせ
法はるさいうきあをと
いうよるれつはあるさんよ所をとうてうきあをいうきんちん
心えしるあにしうはるあるいふうきあをとんにそうせん
引あいてうれつはあるれんへ男とあつてし
年　引あいてうれ
私引あ所ゑ花のいほしうくふてうとあいく
うのくれあつにいうらあふうと
秋　宮法のさまや
四ほいしいうう
七七四の年や　年の昔心
えうりしれそうあうと
白えうりや

かてのとやあてうしいうはく
秋　花の年や
えうり結りんいうら
花の心中や
くあうふいく
秋　人との花をと心つるや
いううりうりの
大花のうのりはのの
はくありうありやうあうよ
秋　はくう清ことはくや　花は文八文の江はうきりあい
年や
うるるさりにしまあるあるに
花の心りいのうるるうと
うのえうりいるうとうさりうる年く
白えうりゆ中花と京へうるうちんや
きはいの文さうそうて　四ん中文文や　年

中納言しくをつかうまつる
蓋の大声のものをふくこころ
をもてふくこころにかとおもうるうと
中声より白文乃伝心とまつ作者
しるとのたん中文のもつりうの
あのてきこと給ふ
中声と二条院乃西乃対へとうとりとの中文乃
思いて白文へ作ることなり
廿一文乃伝ることなり
廿一文のいすより白文のこころへのあるの数より言葉での行
と思ふ也　上にあるまーバ
ふるうへんのまりせくせ
廿一文のふつふとまれうとやと白文へ作る
おもつるるすーきいうまーそのふりけり
白文乃と二条院すてるそんのうまーそ法の
ふいつりとおのほふり　まみやと

中納言しきりのて二条文をつかうて
和と三条文をつかうて大声とうとうしそまるつる
おもとや　第
御おりうにしるへて
蓋乃中声のものふこ　私蓋の心ふへ
中声と二条院よりうーちんとのふるとあるまーち
事ーよこるふこ
白文ふりるとうるいふるる　第花鳥説あるまれり
白文乃ふりるとうるいふるまいはと言るより結そうる中
声乃うーるをーふこ
大ふるのはうー　とはうまるふて文うはつなとおりとや
意字乃はうーるとは蓋のはほふくてなと言るふとや
文のおりーるそうしすちハ